参考資料

1　上位計画等

1-1　上位･関連計画

都市計画マスタープランの策定にあたり、以下の上位・関連計画を参考にしています。

上位計画・関連計画	整　備　の　方　向　等
●佐賀県総合計画 （平成 23 年 10 月）	基本理念：『新しき世に佐賀あり。』 計画期間：平成 23 年度～平成 26 年度 8 つの政策の柱：「安全安心地帯 さが」、「環境・エネルギー最先端県 さが」、「共生社会モデル さが」、「際立つ産業県 さが」、「魅力の宝庫 さが」、「世界水準 さが」、「文化とスポーツの楽園 さが」、「人財発進地 さが」 位置づけ・役割：将来（10 年後）の佐賀県の姿を見据えながら、その実現のため、これからの 4 年間に必要な方策を明らかにするもので、これからの県政運営の基本となるもの。また、この計画は、県はもとより、県民の皆さん、CSO、企業、市町等が参加、協働して取り組んでいくための共通の指針となるもの。
●佐賀県鹿島都市計画区域マスタープラン （平成 16 年 3 月）	（将来ビジョン） ・武雄市や嬉野市をはじめ周辺都市と多様な交流を促進するまち。 ・自然的環境と調和した良好な居住環境を提供できるまち。 ・南部地域の中心都市として産業活力にあふれるまち。 〈主要な都市計画の決定方針〉 ・JR肥前鹿島駅西側の既存商店が集積する地区を「商業・業務拠点」と位置づけ、中心市街地の活性化を図るため、JR肥前鹿島駅周辺の整備と一体となった商業空間の整備を図る。 ・市役所周辺の主要な公共施設が集積している地区を「生活交流拠点」と位置づけ、行政・福祉サービスが充実した住民の生活利便性の高い市街地の形成を図る。 ・「商業・業務拠点」と「生活交流拠点」を結ぶ軸を「生活軸」と位置づけ、快適な歩行者空間等を整備し、沿道に利便施設等の計画的な誘導を図る。 整備、開発及び保全の方針図（参考） [(主)は主要地方道、(一)は一般県道を指す]

上位計画・関連計画	整　備　の　方　向　等
●佐賀県 国土利用計画 （第 4 次）	・平成 29 年における各地域の人口は、南部地域（武雄市、鹿島市、嬉野市、杵島郡大町町、江北町、白石町及び藤 津郡太良町の３市４町）：157 千人(同比 92.9%)程度となることを前提とする。 ・農用地のうち農地（田･畑）については、農地転用や耕作放棄によって減少 を続けており、今後も、輸入圧力の高まり、農業従事者の減少や高齢化、開発 圧力を背景に減少は続くと見込まれるが、その減少幅を縮小させることを目標とする。 ・森林については、公共施設・採石場等への土地利用転換によって減少するものの、耕作放棄地への植林の継続によって現状維持を目標とする。 ・宅地のうち、住宅地及びその他の宅地（商業等業務用地、非課税宅地等）に ついては、当面の世帯数の増加や既存市街地と郊外農用地等との価格差等を背 景に、土地利用転換を伴う新規造成等によって増加は続くが、既存宅地や低未 利用地の有効利用、無秩序な開発の抑制等によって、その増加幅を縮小させることを目標とする。 ・市街地（人口集中地区）の面積については、人口減少に伴い縮小が見込まれ るが、拡大型の都市づくりから転換し、既存ストックを生かしたコンパクトな 市街地形成を図ることにより、人口集中地区への居住割合を増加させ、現状維持を目標とする。
●第五次鹿島市 総合計画 （平成 23 年 4 月）	基本理念：『人が輝くまち鹿島』 目指す都市像：『みんなが住みやすく、暮らしやすいまち』 基本方針：『みんなですすめるまちづくり』 目　　標：『大いなる田舎の創造をめざして』 計画期間：平成 23 年度～平成 27 年度 目標人口：31,000 人（平成 27 年） ○都市基盤 ・道路網の整備：市民生活に密着し、安全で機能が充実した市道整備、人にやさしい道路整備とバリアフリー化の推進、市民との連携・協働による快適な道路維持管理の推進 ・JR 肥前鹿島駅舎および周辺の整備 ・市街地・住宅の整備（市営住宅の整備、市営住宅跡地の利活用の推進、都市緑化の推進） ・定住促進のための空き家情報提供および住宅整備や空き家バンク制度の普及 ○商業－中心市街地開発による活性化 ・安全で安心して暮らせるまちなかの住まいづくりを提案し、高齢社会へ対応する利便性の高いコンパクトなまちを目指す。 ・まちづくりに携わる後継者の発掘・育成に努め、他産業および関係機関との連携を促進し、市民をはじめ観光客が楽しめる中心市街地のにぎわいの創出を目指す。 【主要施策】商店街の再活性化のための各種ソフト事業の実施／空き地・空き店舗の解消に向けた事業の推進／地域交通機関の整備やまちなかへの居住促進／中心市街地のまちなみに「鹿島らしい」一体性を持たせるための環境整備に対する関係者との合意形成 ○観光 ・祐徳稲荷神社を核として、有明海や多良岳山系の自然と肥前浜宿、鹿島城址等の歴史資源を結び回遊性を高め、滞留時間を伸ばす。 【主要施策】祐徳稲荷神社を核とした市内回遊の仕掛けづくり（レンタサイクル等）／埋もれた観光素材の洗い出しと新たな観光ルートづくり／わかりやすい観光地の実現（案内看板の設置・改善）
●第六次鹿島市総合計画 （平成 28 年 3 月）	基本理念：『しごと・ものづくり、ひとづくり、まちづくりの好循環を目指す』 目指す都市像：　『みんなが住みやすく、暮らしやすいまち』 施策の基本的考え方・『「しごと・ものづくり」「 ひとづくり」「まちづくり」の好循環を目指します』 ・『みんなですすめるまちづくり』 計画期間：平成 28 年度～平成 32 年度 ○都市基盤 ・広域幹線道路および市内幹線道路の整備を促進 ・ＪＲ長崎本線の将来の上下分離方式に対する対応策について、早い段階から検討に着手 ・肥前鹿島駅舎および駅前広場の整備 ・居住の安定や定住促進のため、子育て世帯向け住宅の供給を図ります。 ○商業・工業 ・商工業における「ものづくりのまち鹿島」を推進 ・市民交流プラザ「かたらい」などとの連携を促進し、中心商店街の再活性化 ○観光 ・祐徳稲荷神社を核に、有明海や多良岳山系の自然や肥前浜宿などとの回遊性を高めます。 ・道の駅鹿島の観光拠点機能を強化 ・鹿島酒蔵ツーリズム®や干潟体験といった鹿島ならではの素材を活かす。

2　都市計画区域

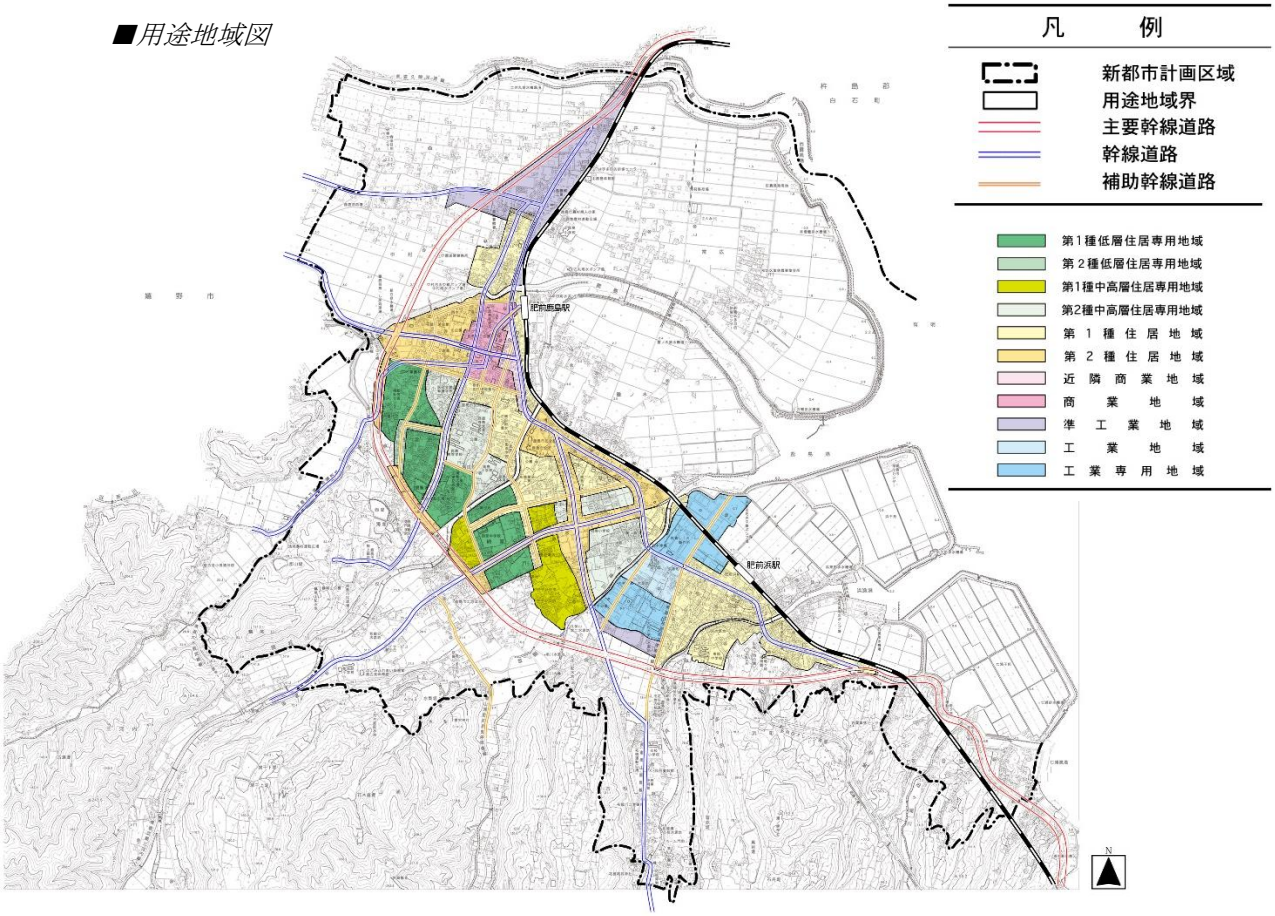
本市の都市計画区域は面積 2,342ha で、肥前鹿島駅周辺の平野部を中心に市域の約 21%を占めています。

また、用途地域は面積約 544ha で、肥前鹿島駅から肥前浜駅に至る鉄道西側の一体であり、既成市街地を中心に設定されています。用途別に見ると、住居系が 408ha と全体の 75%と大半を占め、商業系は 28ha で約 5%、工業系は 108ha で約 20%を占めています。

■鹿島市都市計画区域：用途地域の指定状況

	面積(ha)	割合(%)	建ぺい率(%)	容積率(%)
第１種低層住居専用地域	64	11.8	50	80
第２種低層住居専用地域	5	0.9	50	80
第1種中高層住居専用地域	33	6.1	60	200
第2種中高層住居専用地域	58	10.6	60	200
第１種住居地域	148	27.2	60	200
第２種住居地域	100	18.4	60	200
近隣商業地域	8	1.5	80	200
商業地域	20	3.7	80	400
準工業地域	47	8.6	60	200
工業地域	12	2.2	60	200
工業専用地域	49	9.0	60	200
合計	544	100	―	―

■用途地域図



3　自然的条件

本市は、多良岳を南に背し、多くの河川によって造成された扇状地を中心に開かれた地域です。市の北東部は延長約 19 ㎞の海岸線で、有明海に接しており、有明海は河川の沖積土によって水深はきわめて浅く干満の差が 5～6m もあるため、干潮時には大きな干潟が露出します。南部は標高 1,076ｍの経ヶ岳を主峰とする多良岳山系が、長崎県と自然の境をなしており、この裾野は北に伸びて標高 100ｍ以上の地域が本市の約 66％を占めています。海と山に囲まれた市街地には、鹿島川や黒川、中川、石木津川、浜川を始め、大小 19 の水源があります。

本市の気候は、世界の気候区分から見ると、温帯湿潤気候（温帯モンスーン気候）に属し、その特色は夏に高温多湿、冬にやや寒冷小雨であり、四季の移り変わりがはっきりしています。

平均気温は約 16.5℃、年間降水量は 1,800 ㎜余りで、東京や大坂と比較すると気温で 1～2 度高く、降水量で 400～1,000 ㎜多く、全国的には温暖湿潤気候に属します。

4　歴史的条件

本市は、縄文時代末期から遺跡が分布しており、当時から人が住み暮らしていたと思われます。大和朝廷の国家統一事業が進展する課程において葛津立国造がこの地に置かれ、大化改新後、肥前国藤津郡の郡家がこの地に設けられていました。平安時代には、京都仁和寺の荘園となりました。鎌倉時代以後は、大村、有馬、竜造寺等の地頭あるいは戦国大名の支配を受けましたが、江戸時代に佐賀鍋島藩鹿島支藩主の居城が築かれ、城下町として古くから栄えた都市です。昭和 29 年鹿島町、鹿島村、古枝村、能古見村、浜町の 2 町 3 村が合併して市制を施行し、翌年 30 年に七浦村の一部を編入合併して現在の市域を形成しています。

■赤門

5　社会的条件

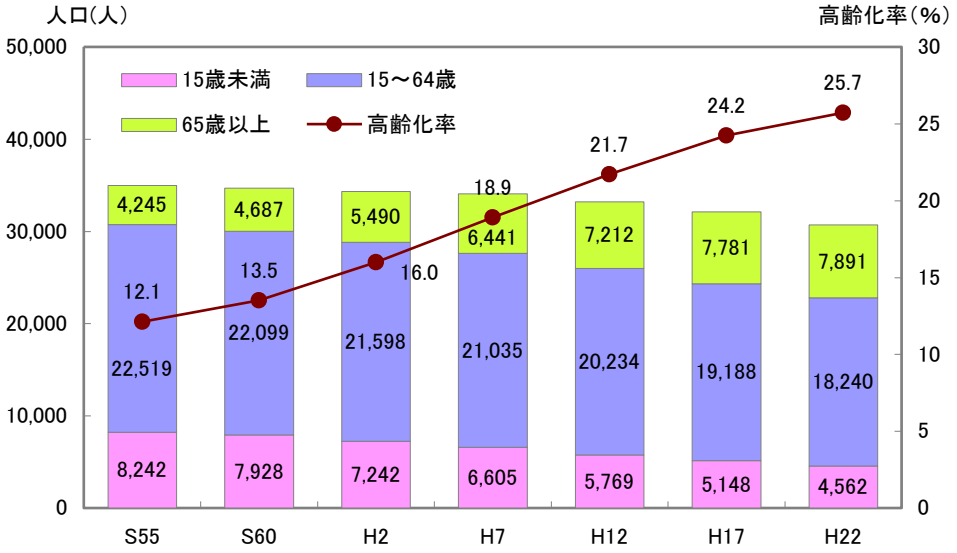
5-1　人口

（１）年齢階層別人口

本市の年齢階層別人口をみると、年少人口（15 歳未満の人口）及び生産年齢人口（15～64 歳）は、年々減少しています。

一方で、老齢人口（65 歳以上）は年々増加しており、平成 12 年以降は年少人口を上回っています。高齢化率も徐々に増加し、平成 22 年には 25.7%となっており、全国平均 23.0%、県平均 24.6%を上回っています。

■年齢階層別人口



出典：国勢調査

（２）地区別人口等

地区別に人口及び世帯数を見ると、市の中心部を含む鹿島地区が最も人口集積しており全体の約 4 割を占めています。残る 5 地区はほぼ同じ人口規模となっています。

■地区別人口及び世帯数（H22）

地　区　名	人　口	世　帯　数
鹿島	14,016	5,047
能古見	3,718	1,068
古枝	3,031	830
浜	3,089	996
北鹿島	3,694	1,180
七浦	3,172	934
合　計	30,720	10,055

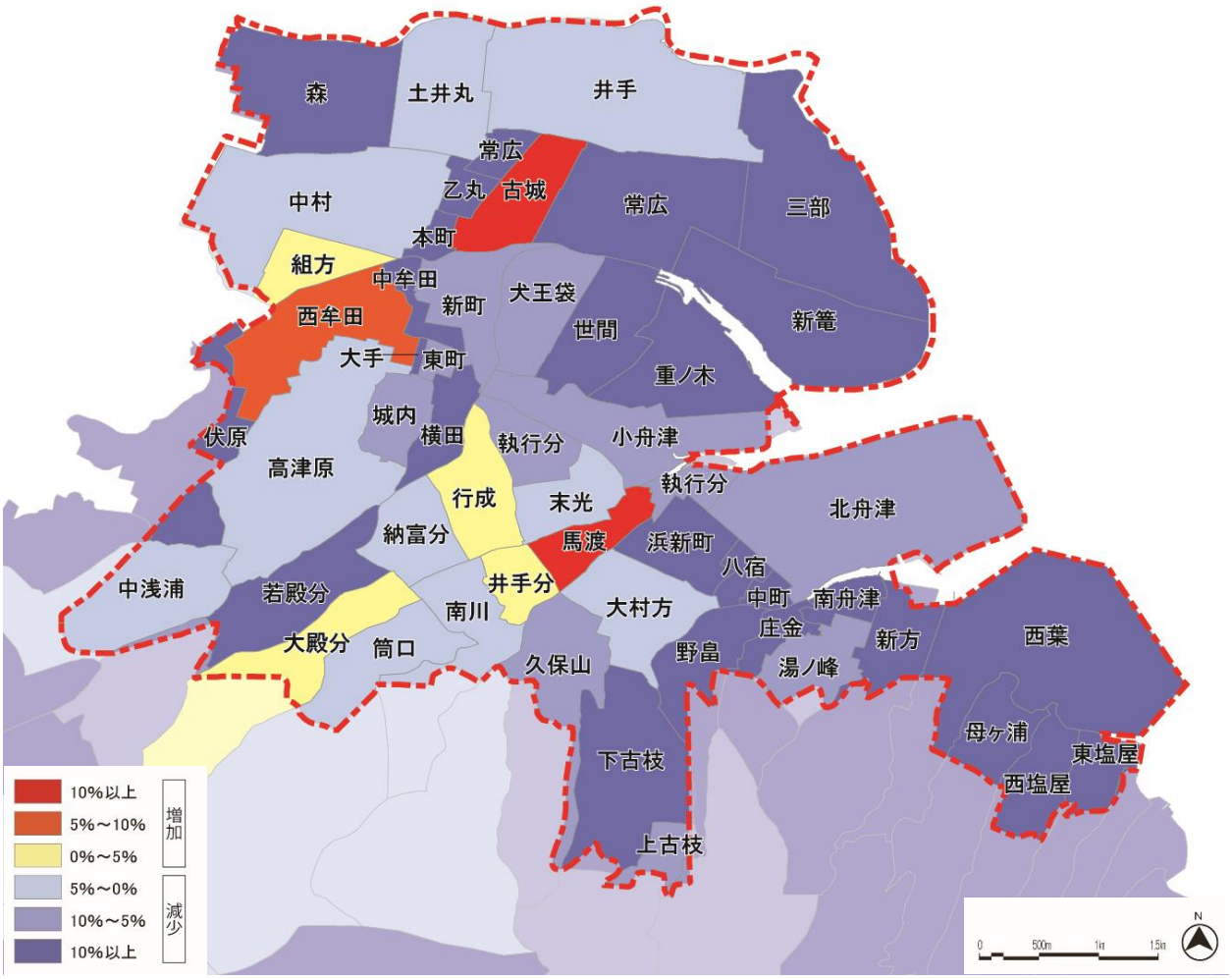
出典：国勢調査

（3）人口増加率

平成 12 年から平成 22 年までの地区別人口増加率をみると、古城や馬渡では 10%以上、西牟田では 5%以上 10%未満増加しています。

一方、53 地区中、46 地区で人口が減少しており、市西部を中心とした 26 地区で 10%減少しています。

■人口増加率（H12→H22）



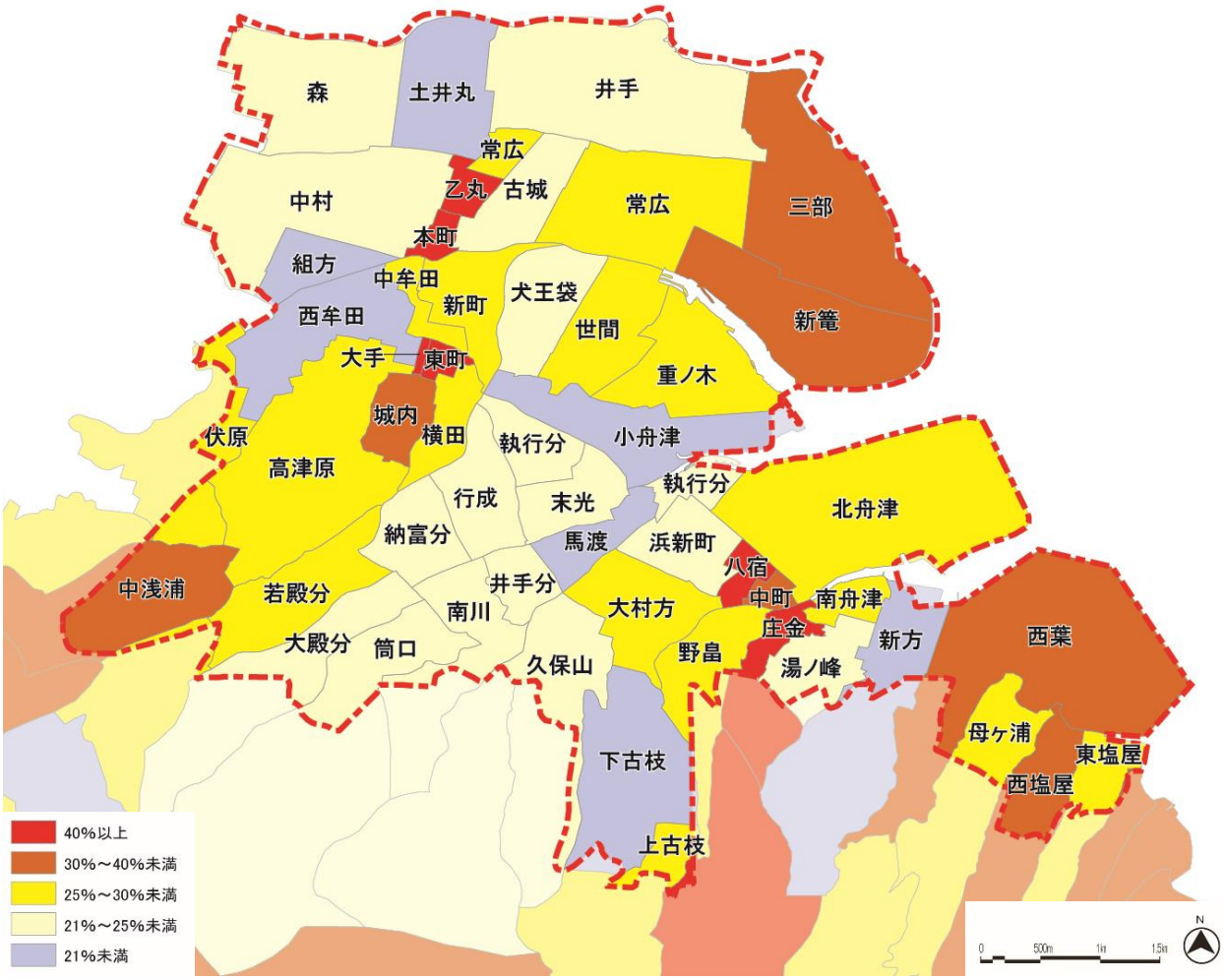
出典：国勢調査

（4）高齢化率

平成 22 年の高齢化率をみると、7 地域が 21%未満ですが、そのほかの地域は 21%以上であり、超高齢社会となっています。

高齢化率の全国平均は 23.0%、県平均は 24.6%ですが、鹿島市では半数以上の地域が 25%を超えた高い値を示しています。特に、乙丸、東町、八宿、庄金の 4 地域では 40%以上となっており、高齢化が進んでいます。

■高齢化率（H22）



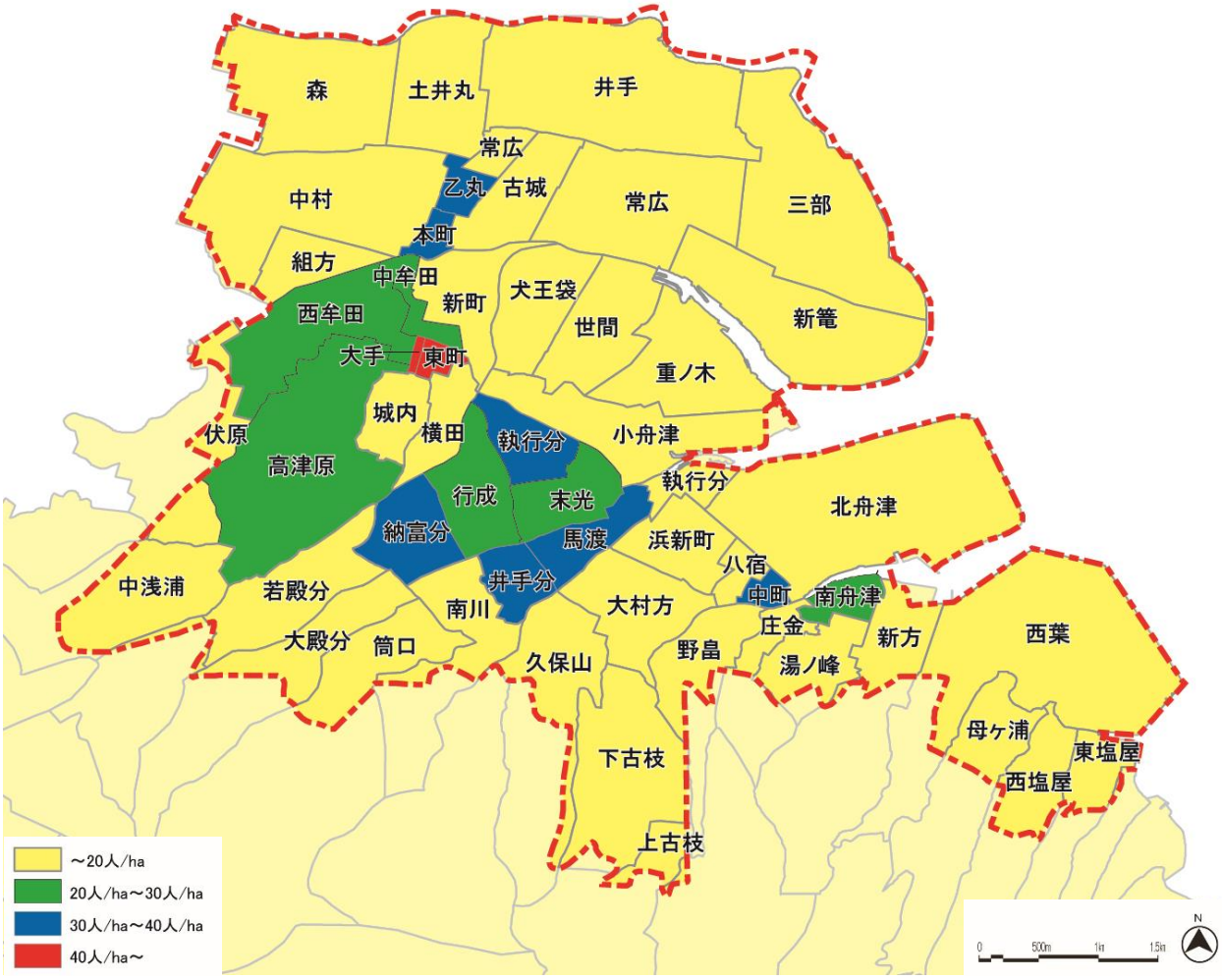
出典：国勢調査

（5）人口密度

平成 22 年の人口密度をみると、国道 207 号の鹿島バイパスに沿うように人口密度が高くなっています。東町は、40 人/ha 以上の人口密度で、鹿島市最大となっています。

また、乙丸、本町、執行分、納富分、井手分、馬渡、中町などの地域は、30 人/ha～40 人/ha となっています。

■*人口密度(H22)*



出典：国勢調査

（６）人口集中地区

本市の人口集中地区（DID）の推移としては、面積は昭和 50 年から平成 22 年にかけて 1.0 ㎢増加しています。人口は、平成 2 年に 7,518 人まで減少したものの、平成 22 年には 9,708 人となり、昭和 50 年の 9,173 と比べて増加しています。人口密度は、昭和 50 年は 5096.1 人/㎢でしたが、平成 22 年には 3530.2 人/㎢へと減少しています。

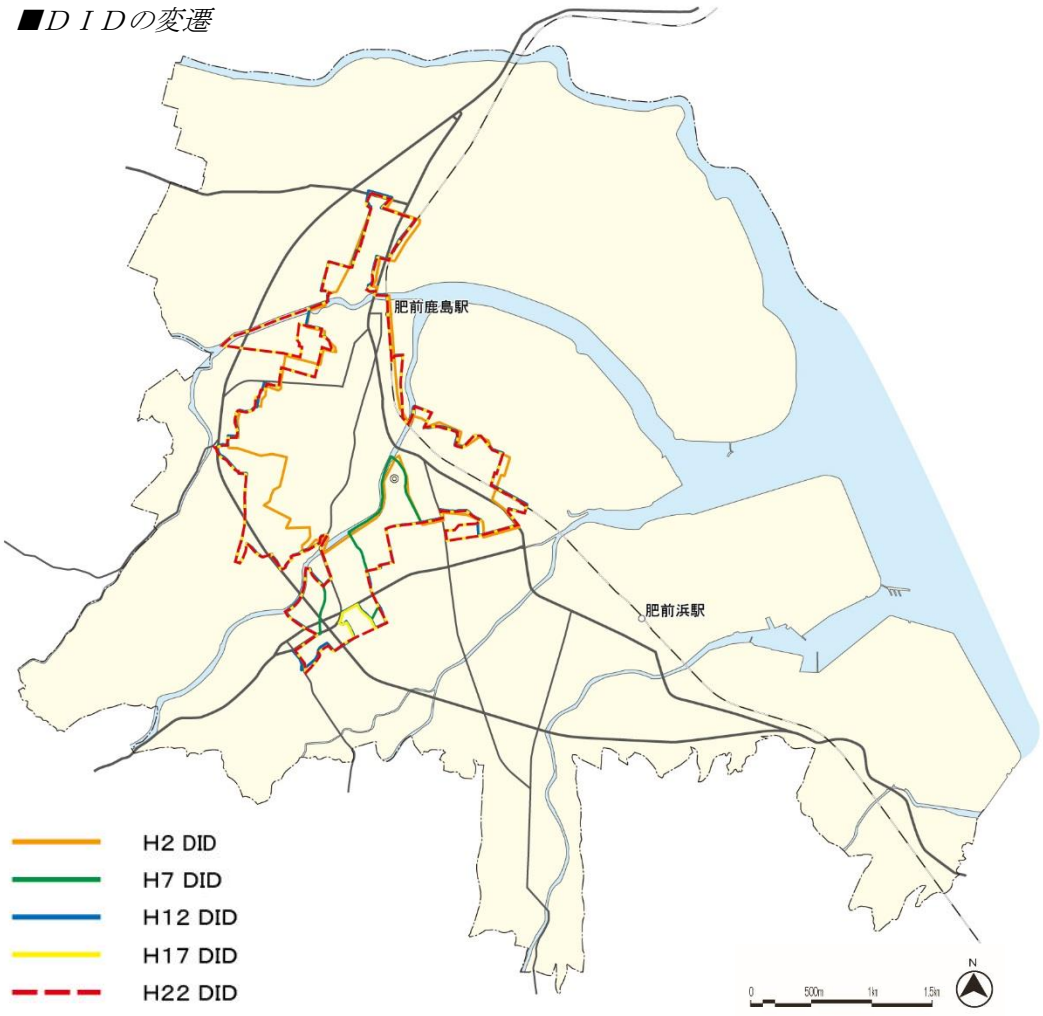
また、都市計画区域に占める割合は、面積は昭和 50 年の 0.8%から平成 22 年には 1.2%、人口は、昭和 50 年の 35.6%から平成 22 年には 37.7%と増加しています。

■ＤＩＤの推移

	人口集中地区			都市計画区域に占める割合	
	面積（km2）	人口（人）	人口密度（人/km2）	面積（%）	人口（%）
昭和 50 年	1.8	9,173	5096.1	0.8	35.6
昭和 55 年	1.7	8,404	4943.5	0.7	32.0
昭和 60 年	1.8	8,085	4491.7	0.8	29.5
平成 2 年	1.9	7,518	3956.8	0.8	27.5
平成 7 年	2.4	9,537	4041.1	1.0	34.5
平成 12 年	2.6	9,659	3715.0	1.1	35.4
平成 17 年	2.7	9,814	3621.4	1.1	37.0
平成 22 年	2.8	9,708	3530.2	1.2	37.7

出典：国勢調査

■ＤＩＤの変遷



出典：国土交通省国土計画局数値情報

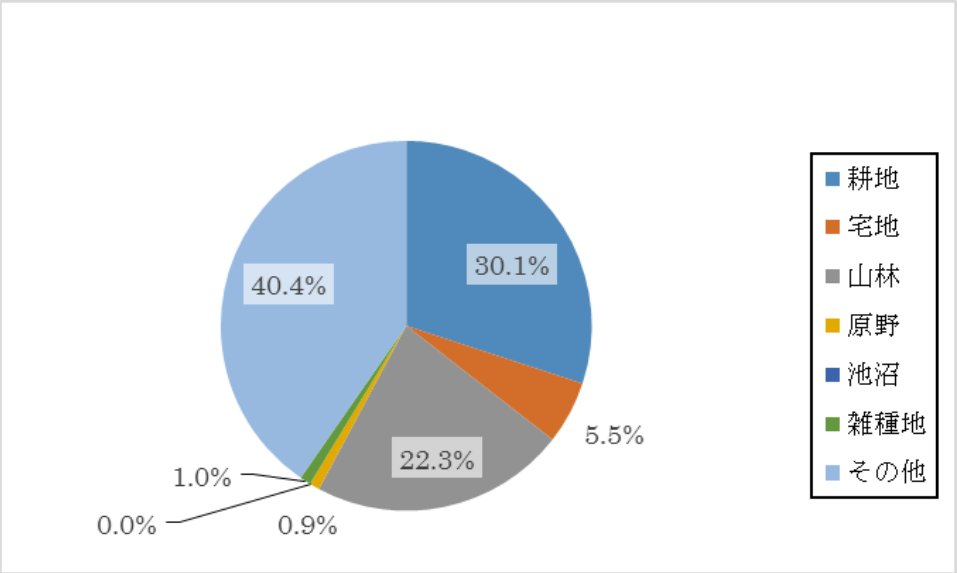
5-2 土地利用

（１）土地利用現況

鹿島市の土地利用（税務課土地台帳面積による）の状況をみると、その他を除くと、耕地に最も利用されており、約 30.1%を占めています。次いで、山林が約 22.3%を占めています。宅地は約 5.5%となっており、市内を通過する国道 207 号バイパスから長崎本線に囲まれた地域に市街地は広がっています。

市北部に平野が広がり、肥前鹿島駅周辺に商業、業務、教育などの都市的機能が集中しており、市南部は、細かい起伏の尾根と谷が入り込み、農地や山林が主体となっています。

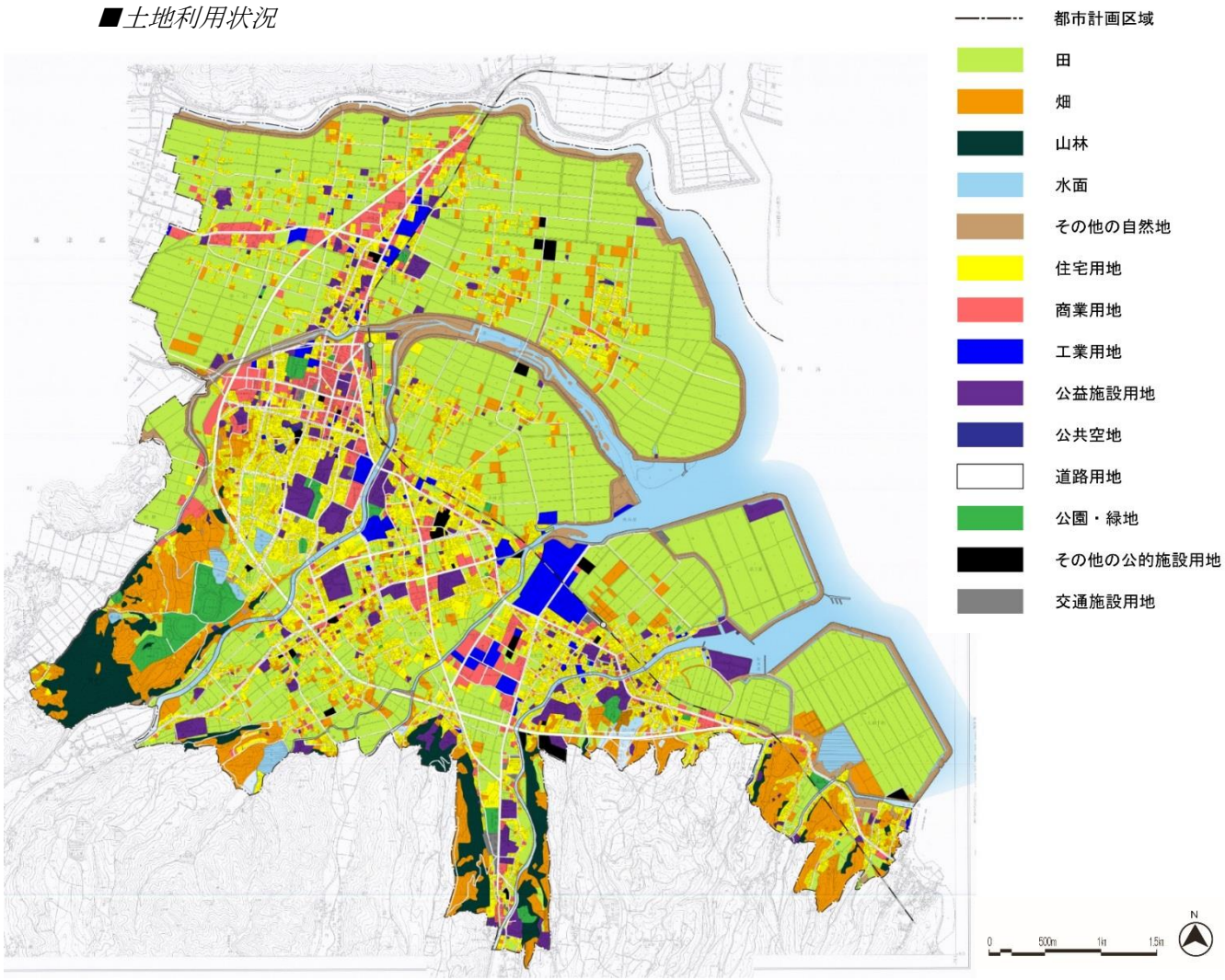
■土地構成図



出典：平成 25 年度版　統計からみた鹿島市

■広大な田園風景

■土地利用状況



出典：都市計画基礎調査（平成６年３月）

（２）土地利用規制状況

鹿島市に関する土地利用規制の状況は以下の通りです。

■土地利用規制の状況

地域・地区	名称	指定年月日		面積：ha
		当　初	最　終	
鹿島市都市計画区域	区域区分	S47.8.11	H13.4.25	2,420
〃	用途地域	S48.3.1	H８．４．１	544
〃	準防火地域	S48.3.1	H23.4.1	709
農振地域		S47.3.31	H２．６．３０	6,933
農用地区域		S47.3.31	H６．１．１８	2,740
地域地区森林計画対象民有林			H３．９．２１	3,975
保安林			H５．３．３１	811
県立自然公園区域			S27.12.24	1,393

出典：都市計画基礎調査　（平成６年３月）、佐賀県の都市計画 2014

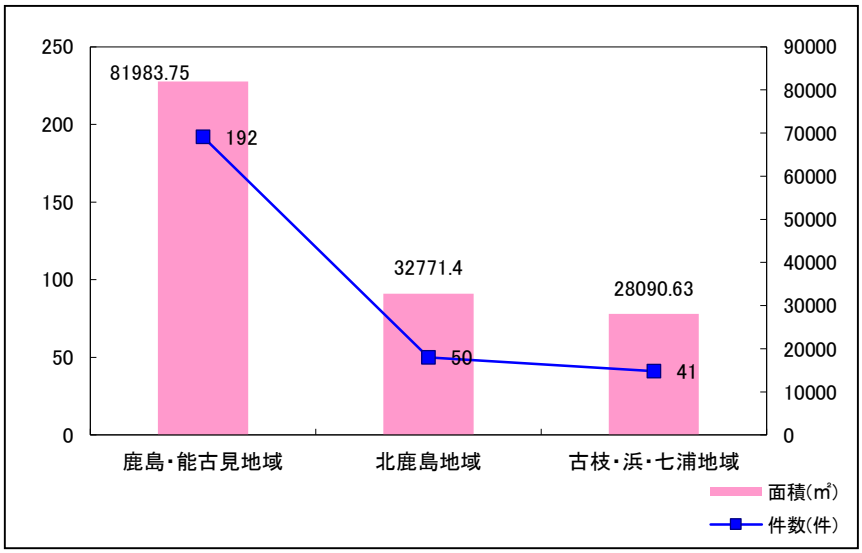
（３）農地転用状況

平成 19～25 年までの農地転用状況を見ると鹿島・能古見地域で 192 件、北鹿島地域で 50 件、古枝・浜・七浦地域で 41 件の農地転用が行われています。

地域別にみると、鹿島・能古見地域では住宅用地への転用面積が大きく、北鹿島地域及び古枝・浜・七浦地域では商業用地への転用面積が大きくなっています。

用途別にみると、商業用地への転用面積は北鹿島地域で大きく、それ以外の用地の転用面積は鹿島・能古見地域で大きくなっています。

■地域別農地転用状況



■農地転用状況（H19～H25 年）

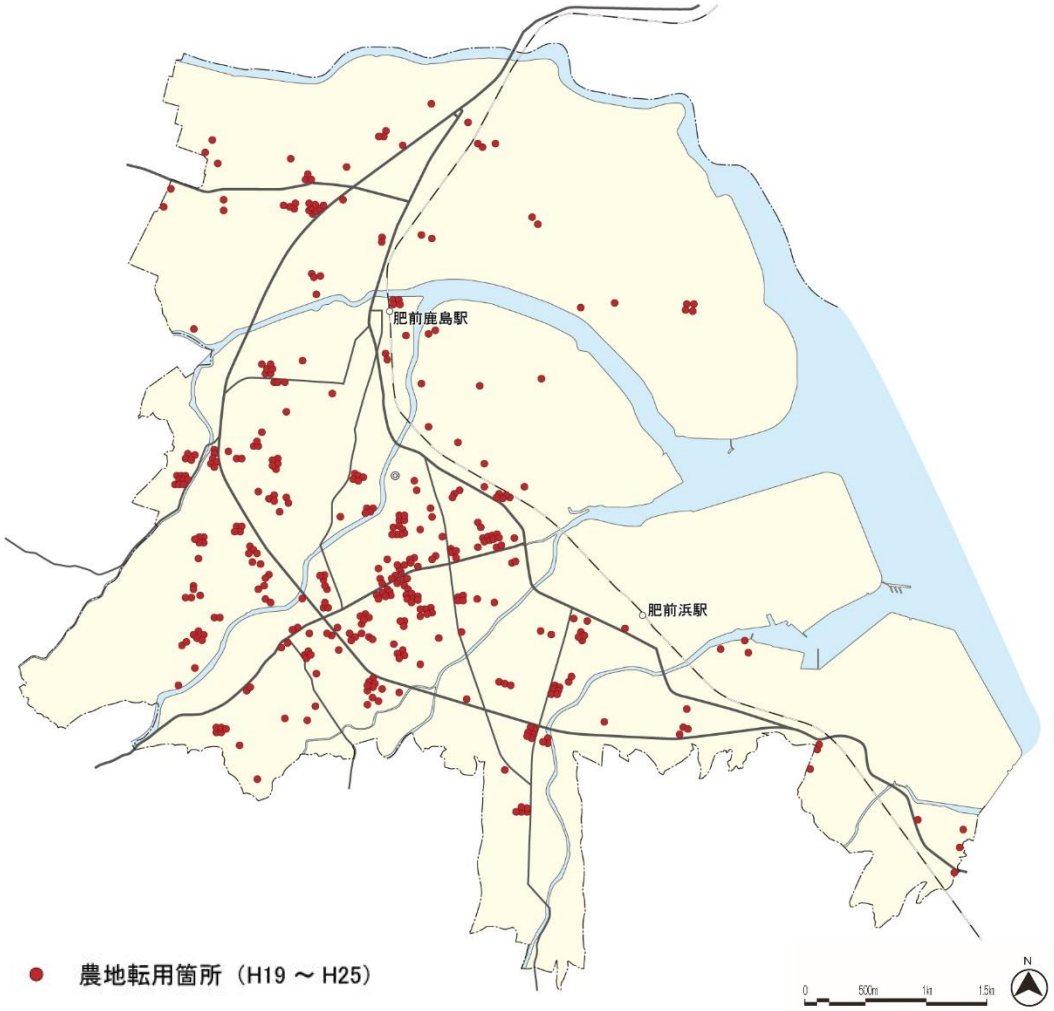
地　域		住宅用地	工業用地	商業用地	公共用地	その他	総　計
鹿島･能古見地域	件数(件)	112	3	6	10	61	192
	面積(㎡)	52,624	1,453	3,414	5,038	19,455	81,984
北鹿島地域	件数(件)	17	0	8	3	22	50
	面積(㎡)	7,146	0	13,264	2,114	10,247	32,771
古枝･浜･七浦地域	件数(件)	18	0	8	1	14	41
	面積(㎡)	7,282	0	12,738	276	7,795	28,091
総　計	件数(件)	147	3	22	14	97	283
	面積(㎡)	67,052	1,453	29,416	7,428	37,497	142,846

■地目別農地転用状況

単位：㎡

地域	地目	住宅用地	工業用地	商業用地	公共用地	その他	総計
鹿島･能古見地域	田	61	1	2	3	29	96
	田畑	1	1	0	0	0	2
	畑	50	1	4	7	32	94
鹿島･能古見地域 集計		112	3	6	10	61	192
北鹿島地域	田	8	0	7	0	15	30
	田畑	1	0	0	0	0	1
	畑	8	0	1	3	7	19
北鹿島地域 集計		17	0	8	3	22	50
古枝･浜･七浦地域	田	13	0	6	1	0	31
	畑	5	0	2	0	3	10
古枝･浜･七浦地域 集計		18	0	8	1	14	41
総計		147	3	22	14	97	283

■農地転用分布図



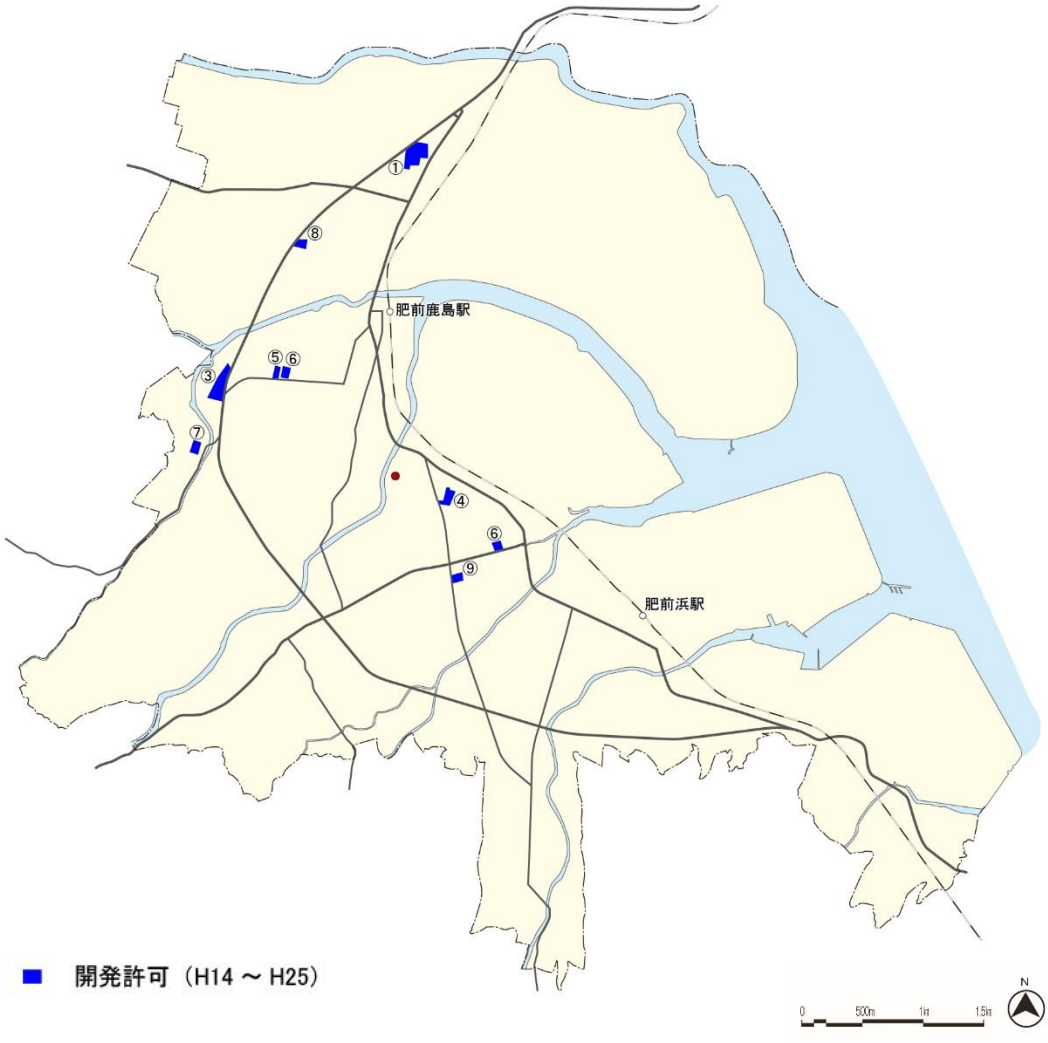
（4）開発状況

本市の平成 14 年～25 年の開発許可の状況をみると、開発許可申請が 9 件あり、全てが鹿島・能古見地域でした。内訳は店舗、パチンコ店、住宅、駐車場など多様であり、面積は 10,000 ㎡を超える開発が 2 件、それ以外は 3,000 ㎡程度の開発規模となっています。

■開発許可状況（都市計画区域）

開発許可年月日	地　域	建　築　物	面積(㎡)
H15.11.14	鹿島・能古見地域	パチンコ店	15,945.89
H16.10.28	鹿島・能古見地域	共同住宅、貸駐車場	3,157.56
H17.12.16	鹿島・能古見地域	パチンコ店	13,547.42
H18.1.18	鹿島・能古見地域	マンション、駐車場	3,753.75
H18.11.6	鹿島・能古見地域	分譲住宅、借家	3,768.26
H18.12.13	鹿島・能古見地域	店舗(ホームセンター)	3,294.08
H21.4.22	鹿島・能古見地域	高齢者専用賃貸住宅	3,811.87
H25.9.30	鹿島・能古見地域	店舗（コンビニエンスストア）	4,481.72
H25.11.28	鹿島・能古見地域	店舗（ドラッグストア）	5,134.76

出典：開発許可台帳



出典：開発行為位置図

（５）建築状況

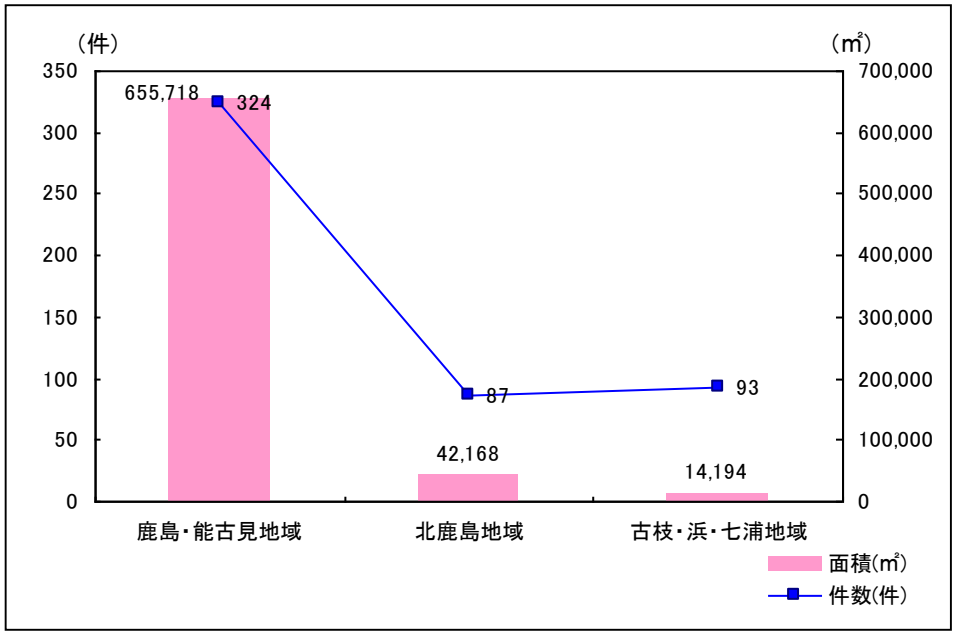
①建築動向

本市の平成 19 年から平成 23 年の建築動向をみると、鹿島・能古見地域では 324 件、北鹿島地域では 87 件、古枝・浜・七浦地域では 93 件の建築許可が行われています。件数、面積ともに鹿島・能古見地域が突出しています。

地域別にみると、鹿島・能古見地域では工業用地の面積が大きく、北鹿島地域及び古枝・浜・七浦地域では住宅用地の面積が大きくなっています。

用途別にみると、工業用地、商業用地、公共用地の面積は鹿島・能古見地域が大きくなっていますが、住宅用地の面積は北鹿島地域が大きくなっており、北鹿島地域において住宅地が形成されていることが伺えます。

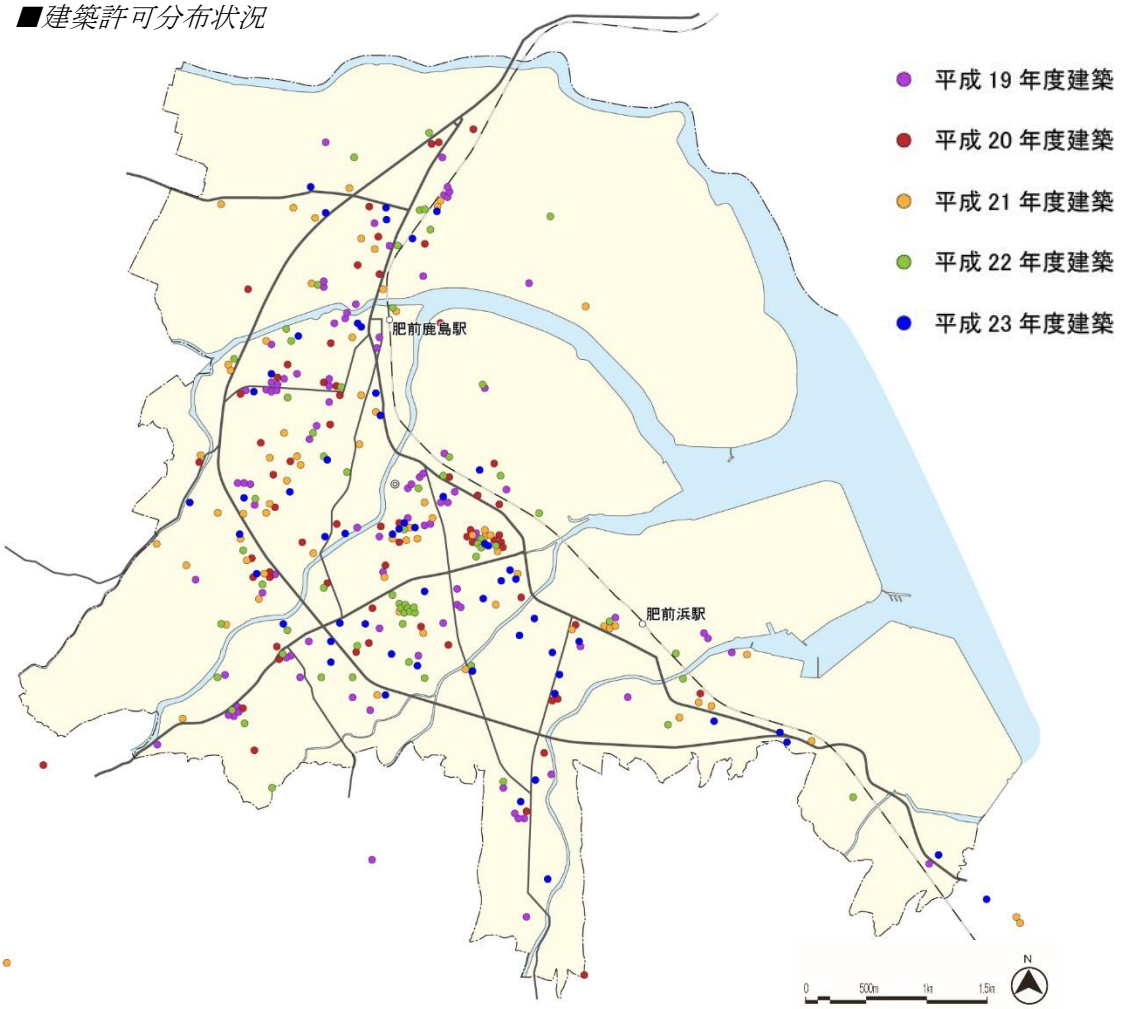
■建築許可状況



■用途別建築許可状況

		住宅用地	工業用地	商業用地	公共用地	その他	総計
鹿島･能古見地域	件数(件)	255	10	12	26	19	324
	面積(㎡)	29,858.7	610,363.2	4,358.1	9,600.2	1,538.3	655,718.5
北鹿島地域	件数(件)	55	10	6	6	9	87
	面積(㎡)	35,589.1	1,110.7	3,342.0	1,289.8	836.6	42,168.2
古枝･浜･七浦地域	件数(件)	50	13	4	11	15	93
	面積(㎡)	5,883.2	3,421.5	827.1	1,777.3	2,284.5	14,193.5
総　計	件数(件)	360	33	22	43	43	504
	面積(㎡)	71,330.9	614,895.5	8,527.1	12,667.3	4,659.4	712,080.2

■建築許可分布状況



②新築状況

平成 19 年～23 年までの都市計画区域内の新築状況をみると、鹿島・能古見地域では 253 件、北鹿島地域では 47 件、古枝・浜・七浦地域では 55 件の建築許可が行われています。件数を見ると鹿島・能古見地域が突出しています。

用途別に見ると、住宅用地は各地域ともに、7 割近くを占めています。

■新築状況（都市計画区域）

単位：㎡

地域	年度	工業用地	住宅用地	商業用地	公共用地	その他	総　計
鹿島･能古見地域	H19	2	57	1	2	3	65
	H20	1	42	3	0	5	51
	H21	0	40	2	2	2	46
	H22	1	45	0	2	1	49
	H23	0	34	3	4	1	42
小　計		4	218	9	10	12	253
北鹿島地域	H19	1	9	1	1	1	13
	H20	1	8	0	0	0	9
	H21	0	6	2	1	1	10
	H22	1	3	1	1	1	7
	H23	0	7	0	0	1	8
小　計		3	33	4	3	4	47
古枝･浜･七浦地域	H19	0	10	0	1	2	13
	H20	1	5	0	0	1	7
	H21	1	8	2	1	2	14
	H22	0	4	0	0	2	6
	H23	0	10	2	1	2	15
小　計		2	37	4	3	9	55
総　計		9	288	17	16	25	355

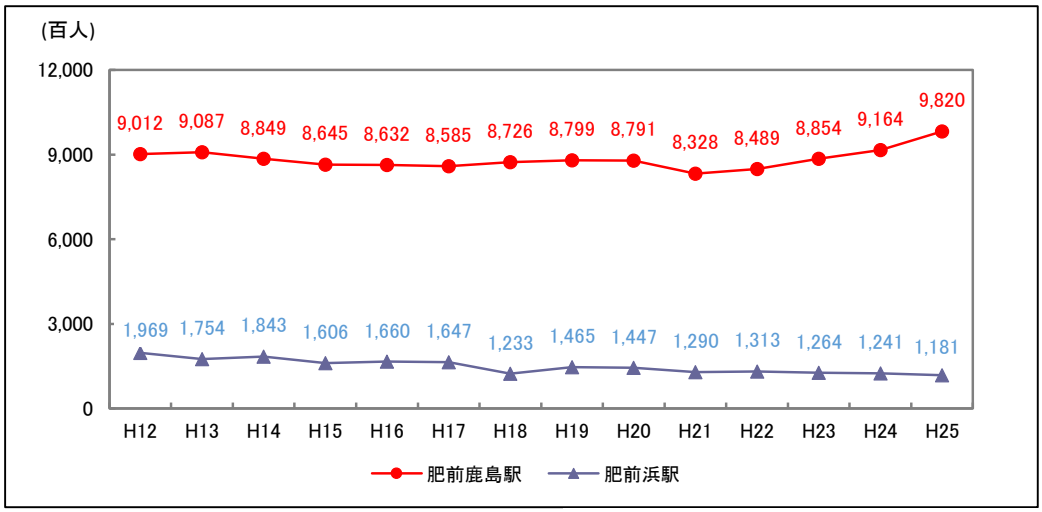
出典：建築確認申請

5-3 交通体系

（1）鉄道

鹿島市内を南北に長崎本線が走っており、肥前鹿島駅を含む 4 駅が設置されています。肥前鹿島駅から主要駅までの所要時間は、博多駅、長崎駅までが約 1 時間、鳥栖駅、佐賀駅までが約 30 分です。肥前鹿島駅は、長崎本線の特急列車と普通列車の全列車が停車する、市内で最も乗客数の多い駅です。一方、肥前浜駅は、普通列車のみが停車しています。

■JR 駅乗降客数の推移



出典：佐賀県統計年鑑 H26

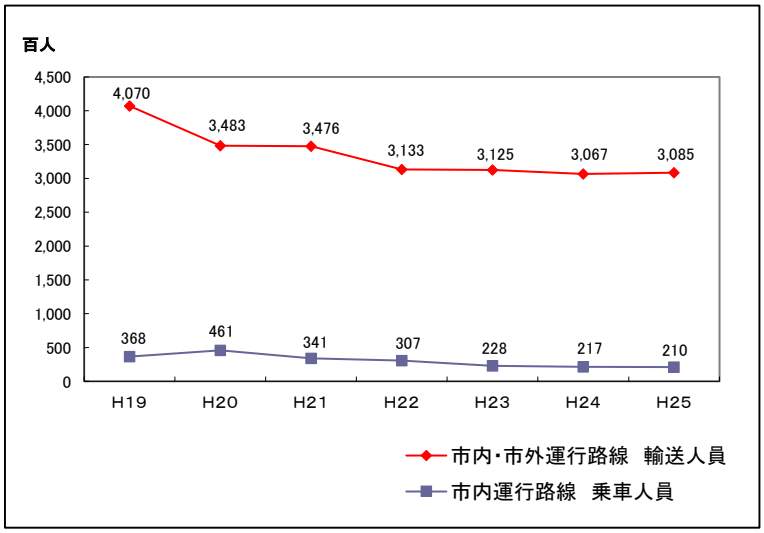
（2）バス路線

市内のバス路線は、主要都市間を結ぶとともに放射線状に運行される市内路線からなっています。

バス停留所から徒歩圏域をみると、人口の多い高津原地区にも、公共交通の空白地帯となっている地域があります。

祐徳バスの市内・市外運行路線の輸送人員は、H19 年以降減少を続けており、H25 年には約 31 万人で、H19 年と比べ約 10 万人減少しています。

■路線バス（祐徳バス）乗車人数推移表

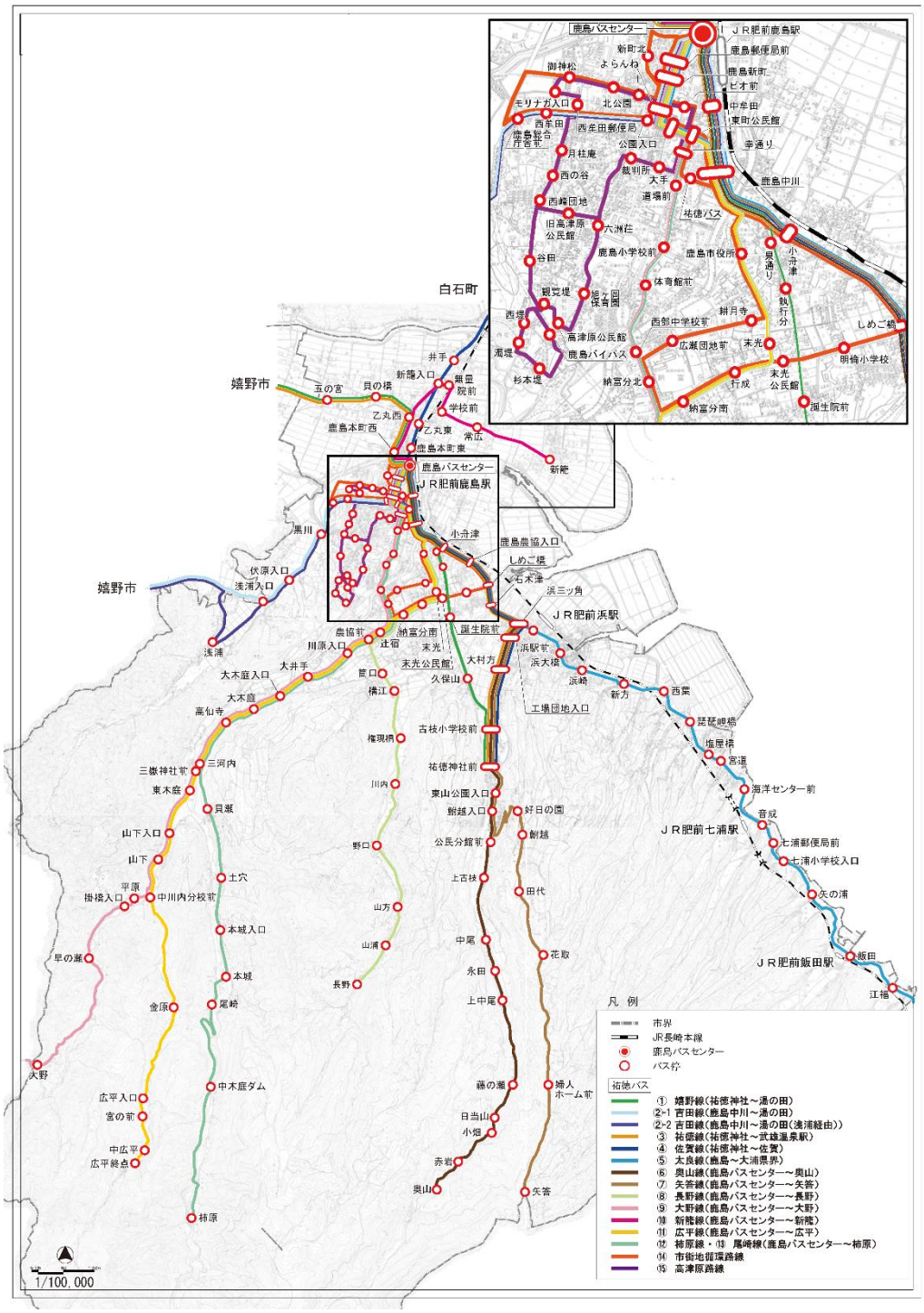


※市内・市外運行バスの乗車数は、市外での乗車人数を含む。

■バス利用者数の推移（各年 10～9 月）

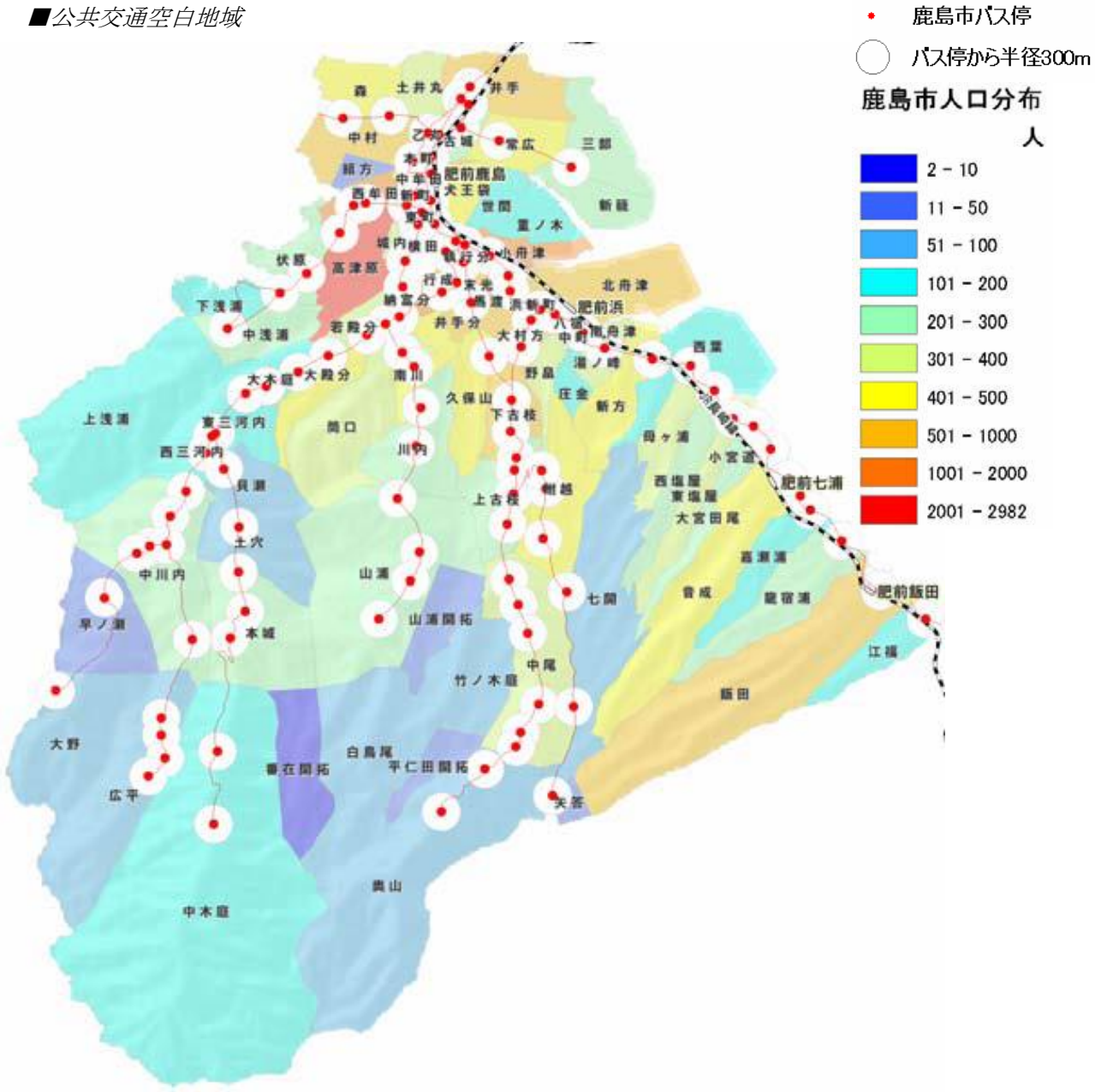
		市内循環バス	高津原乗合タクシー
H23	利用者数	1,604	589
	1便平均乗車数	0.91	0.78
H24	利用者数	2,012	823
	1便平均乗車数	1.13	0.93
H25	利用者数	2,689	803
	1便平均乗車数	1.52	0.89

■鹿島市内公共交通網



出典：鹿島市地域公共交通総合連携計画(平成 22 年)

■公共交通空白地域



出典：鹿島市地域公共交通総合連携計画(平成 22 年)

（3）道路

鹿島市の道路は国道 207 号が南北に走り、北に白石町、南に太良町と結ばれています。国道 444 号は肥前鹿島駅付近から平谷・黒木トンネルを抜け、大村市の市街地へと結ばれています。この他、肥前鹿島駅付近から国道 498 号により嬉野市塩田町や武雄市と結ばれ、主要地方道鹿島嬉野線により嬉野市などと接続されています。

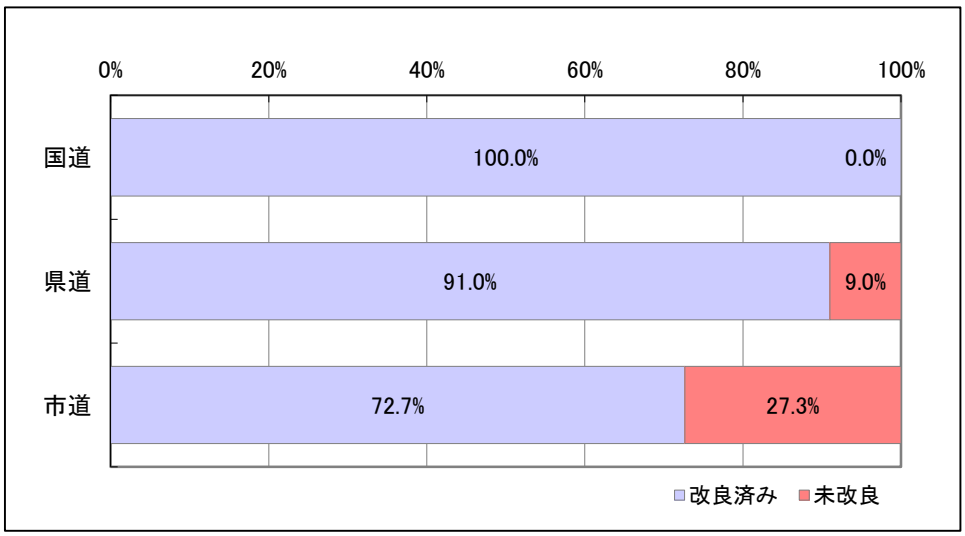
本市における道路整備状況は、平成 26 年時点で、総延長約 408.2km となっています。これらのうち、国道は 100%、県道は 91.0%、市道は 72.7%が改良されています。

■道路整備状況（行政区域）H26 年末時点

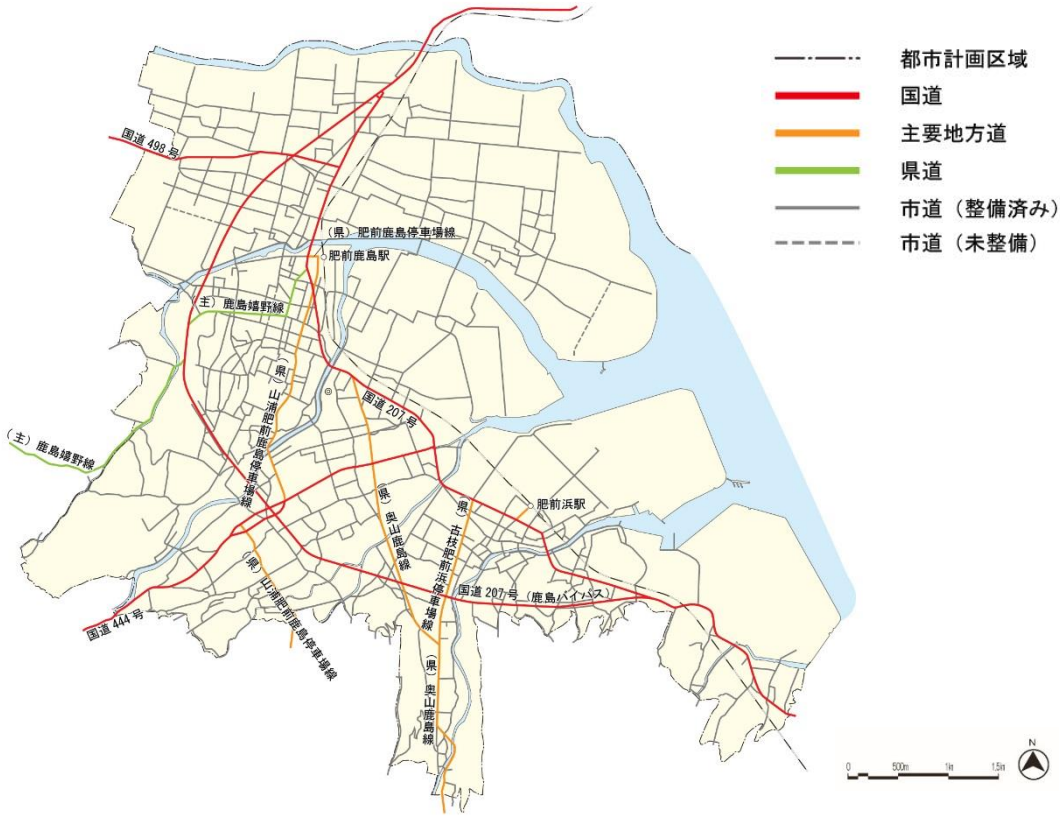
	国道			県道			市道		
	延長（km）	改良率（%）	舗装率（%）	延長（km）	改良率（%）	舗装率（%）	延長（km）	改良率（%）	舗装率（%）
H16	29.2	100%	100%	30.9	89.3%	100%	335.6	70.6%	98.7%
H17	29.2	100%	100%	30.8	89.6%	100%	335.6	70.6%	98.7%
H18	29.2	100%	100%	30.8	89.6%	100%	335.7	70.9%	98.7%
H19	29.2	100%	100%	30.8	89.6%	100%	335.7	71.0%	98.7%
H20	36.8	100%	100%	30.2	89.1%	100%	337.7	72.0%	98.9%
H21	36.8	100%	100%	30.2	89.1%	100%	337.7	72.1%	99.0%
H22	37.0	100%	100%	30.2	89.1%	100%	337.7	72.1%	99.0%
H23	37.2	100%	100%	31.2	91.0%	100%	339.8	72.6%	99.0%
H24	37.2	100%	100%	31.2	91.0%	100%	339.8	72.7%	99.0%
H25	37.2	100%	100%	31.3	90.7%	100%	339.8	72.7%	99.0%
H26	37.2	100%	100%	31.2	91.0%	100%	339.8	72.7%	99.0%

出典：佐賀県統計年鑑 H26

■鹿島市内の道路の整備状況（H26）

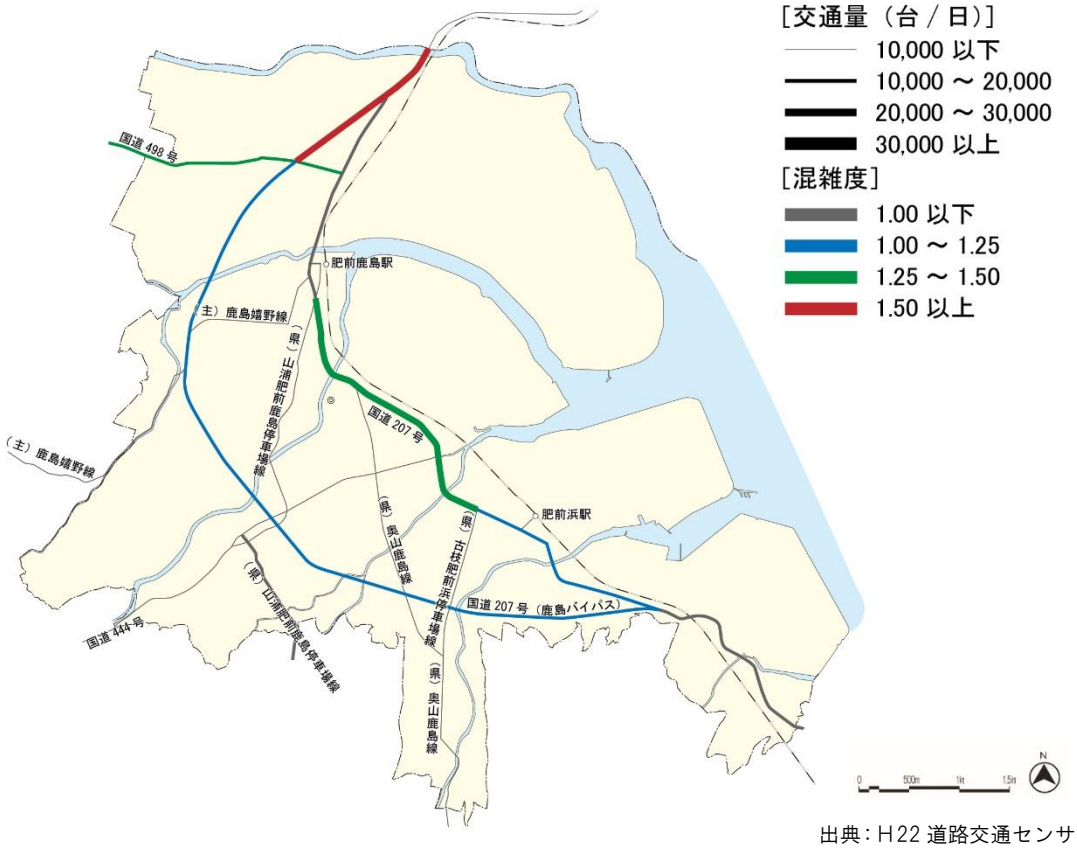


■道路網図



本市の道路交通状況をみると、市街地を通過し本市を南北に貫通する国道 207 号の交通量が多く、混雑度も高くなっています。特に白石町へと続く国道 207 号（鹿島バイパス）北側の交通量が多くなっています。また、嬉野市へと続く国道 498 号の交通量も比較的多くなっています。

■道路交通状況



出典：H22 道路交通センサス

5-4 都市施設

（１）都市計画道路

都市計画道路は、自動車や歩行者の通行などの交通処理を始め、市街地の骨格を形成する機能や水道、電気などの埋設空間としての機能、市街地の延焼防止などの防災機能など、多面的な役割を担っています。本市の都市計画道路は、18 路線、総延長約 3.6ｋｍの計画となっています。その整備率は 82.1%であり、市の中心部では長期未着手の箇所が多くなっていますが、その他の地域ではほぼ整備が完了しています。

■都市計画道路の整備状況（H25 末現在）

名称		幅員（m）	延長（m）	整備済（m）	未着手（m）	整備率（%）
1	百貫･西葉線	23	9,170	9,170	0	100.0%
2	井手･西葉線	16	6,100	1,000	5,100	16.4%
3	乙丸･吹上線	16	2,700	0	2,700	0.0%
4	鹿島駅･城内線	16	700	570	130	81.4%
5	横田･井手分線	16	1,200	0	1,200	0.0%
6	奥山･鹿島線	16	3,300	3,300	0	100.0%
7	乙丸･武雄線	16	1,670	480	290	28.7%
8	中牟田･御神松線	16	950	950	0	100.0%
9	小舟津･広瀬線	16	1,380	880	500	63.8%
10	看場･納富分線	16	1,980	1,980	0	100.0%
11	石木津線	12	760	760	0	100.0%
12	西牟田･蟻尾山線	12	1,400	0	1,400	0.0%
13	城内･納富分線	12	1,020	450	570	44.1%
14	新町･祐徳線	12	1,270	1,140	390	89.8%
15	鹿島駅･組知線	12	680	0	680	0.0%
16	東町･西牟田線	12	1,120	0	1,120	0.0%
17	蛤･西峰線	12	320	0	320	0.0%
18	新町･鹿島港線	9	670	330	340	49.3%
総 計		260	36,390	21,010	14,740	57.7%

■都市計画道路の整備状況

出典：都市計画道路整備状況図

（2）公園

本市の都市公園は、総合公園の蟻尾山公園(78.0ha)、近隣公園の旭ヶ岡公園(2.1ha)、中川公園(1.4ha)、臥竜ヶ岡公園(2.2ha)、北公園(3.0ha)、街区公園の城内公園(0.24ha)、中川児童公園(0.33ha)、中牟田公園(0.19ha)の計 8 ヶ所あり、中川児童公園を除く 7 ヶ所の都市公園で供用が開始されています。

その他の公園として、都市計画区域内には児童遊園（9 ヶ所）、運動広場（7 ヶ所）が供用されている。

■都市公園面積（平成 25 年度末）

		計画面積（ha）	供用面積（ha）	整備目標（H25 現在）（ha）
街区公園				
	城内公園	0.24	0.24	0.24
	中川児童公園	0.33	0.00	0.33
	西牟田公園	0.19	0.19	0.19
近隣公園				
	旭ヶ岡公園	2.10	2.10	2.10
	中川公園	1.40	1.40	1.40
	臥竜ヶ岡公園	2.20	2.20	2.50
	北公園	3.00	2.50	3.00
総合公園				
	蟻尾山公園	78.00	21.77	21.92

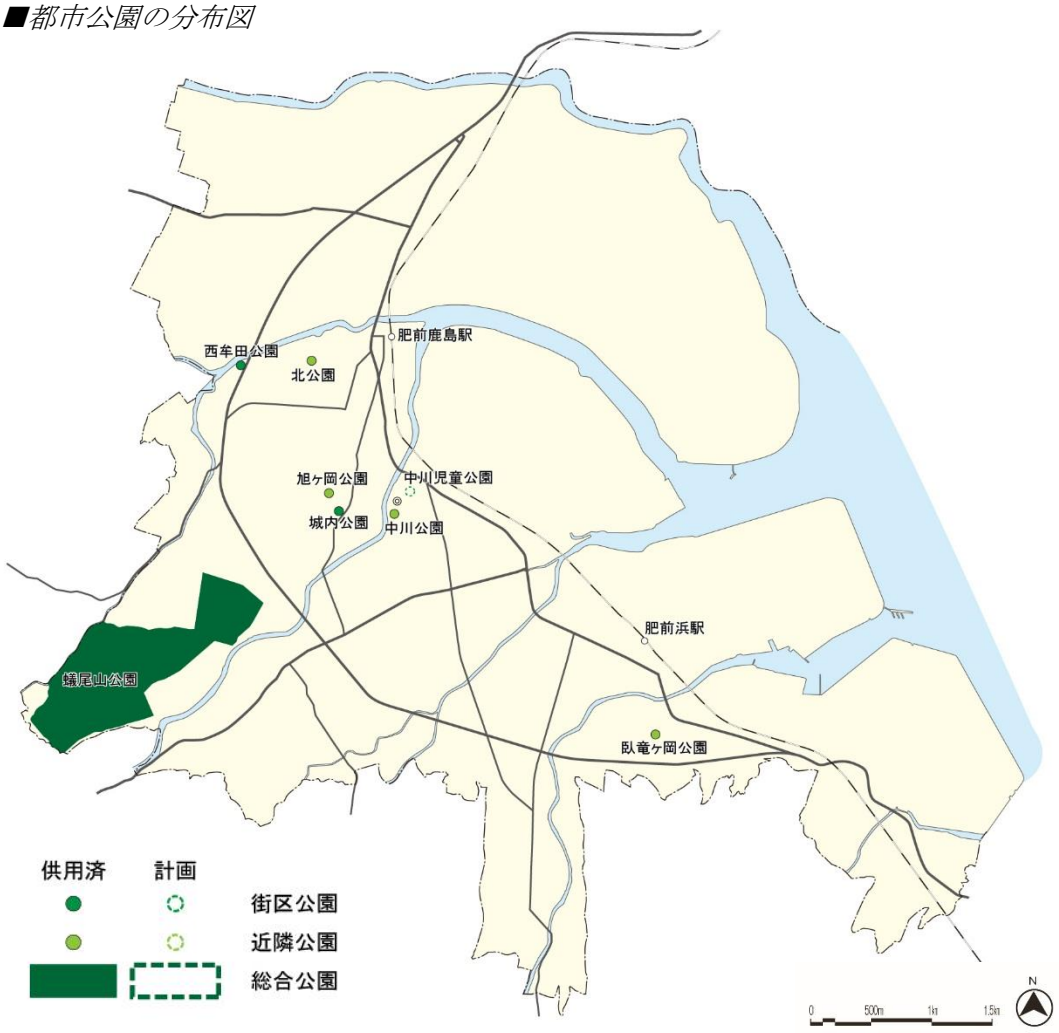
■都市公園／（8 ヶ所）

街区公園（3 ヶ所）	城内公園、中川児童公園、西牟田公園
近隣公園（4 ヶ所）	旭ヶ岡公園、中川公園、臥竜ヶ岡公園、北公園
総合公園（1 ヶ所）	蟻尾山公園

■その他の公園／（16 ヶ所）

児童遊園（9 ヶ所）	中央児童遊園、中川児童遊園、北鹿島児童遊園、広瀬児童遊園、二本松通り児童遊園、乙丸児童遊園、母ヶ浦児童遊園、大殿分児童遊園、北舟津児童遊園
運動広場（7 ヶ所）	横田運動広場、祐徳運動広場、市民体育館前運動広場、母ヶ浦運動広場、北鹿島農村運動広場、浅浦農村運動広場、かんらん農村運動広場

■都市公園の分布図



出典：緑の基本計画

（3）河川

本市の河川は、昭和 56 年から平成 34 年にかけて、2 級河川浜川にて、事業を行っています。計画規模はQ＝280 ㎥/ｓで、計画規模はW＝1/50 です。この事業費は 76 億円で、平成 25 年末時点の進捗率は 64%となっています。

■河川整備事業概要

事業箇所	2 級河川浜川
事業延長	3,300m
事業期間	S56～H34
事業費	7,600,000 千円
進捗率	64%/H25 年末
事業概要	Q=280 ㎥／s　W=1/50

出典：杵藤土木事務所

（4）上水道

本市は扇状地が多いため、地下水が豊富であり、上水道の水源を地下水に依存しています。都市計画区域内は上水道普及率が 100%となっています。供給戸数は、平成 25 年には 9,437 戸への供給がなされており、平成 18 年より 199 戸増加しています。

■上水道の供給状況

	供給戸数（戸）	給水人口（人）	配水量（m^3）	給水量（m^3）
平成 18 年	9,238	27,884	2,993,961	2,684,539
平成 19 年	9,276	27,665	3,139,375	2,524,142
平成 20 年	9,317	27,504	3,130,483	2,618,927
平成 21 年	9,325	27,413	3,084,366	2,612,794
平成 22 年	9,380	27,382	3,135,782	2,618,432
平成 23 年	9,383	27,311	3,105,203	2,462,426
平成 24 年	9,399	27,000	3,056,832	2,567,337
平成 25 年	9,437	26,802	3,033,138	2,550,547

出典：鹿島市データブック

■上水道計画図

（５）下水道

本市では下水道整備が進んでおり、市街地周辺の用・排水路及び河川は、水質浄化が進んでいます。

市街化が予想される区域に対し、現在下水道の整備（汚水幹線の埋設）が進められています。

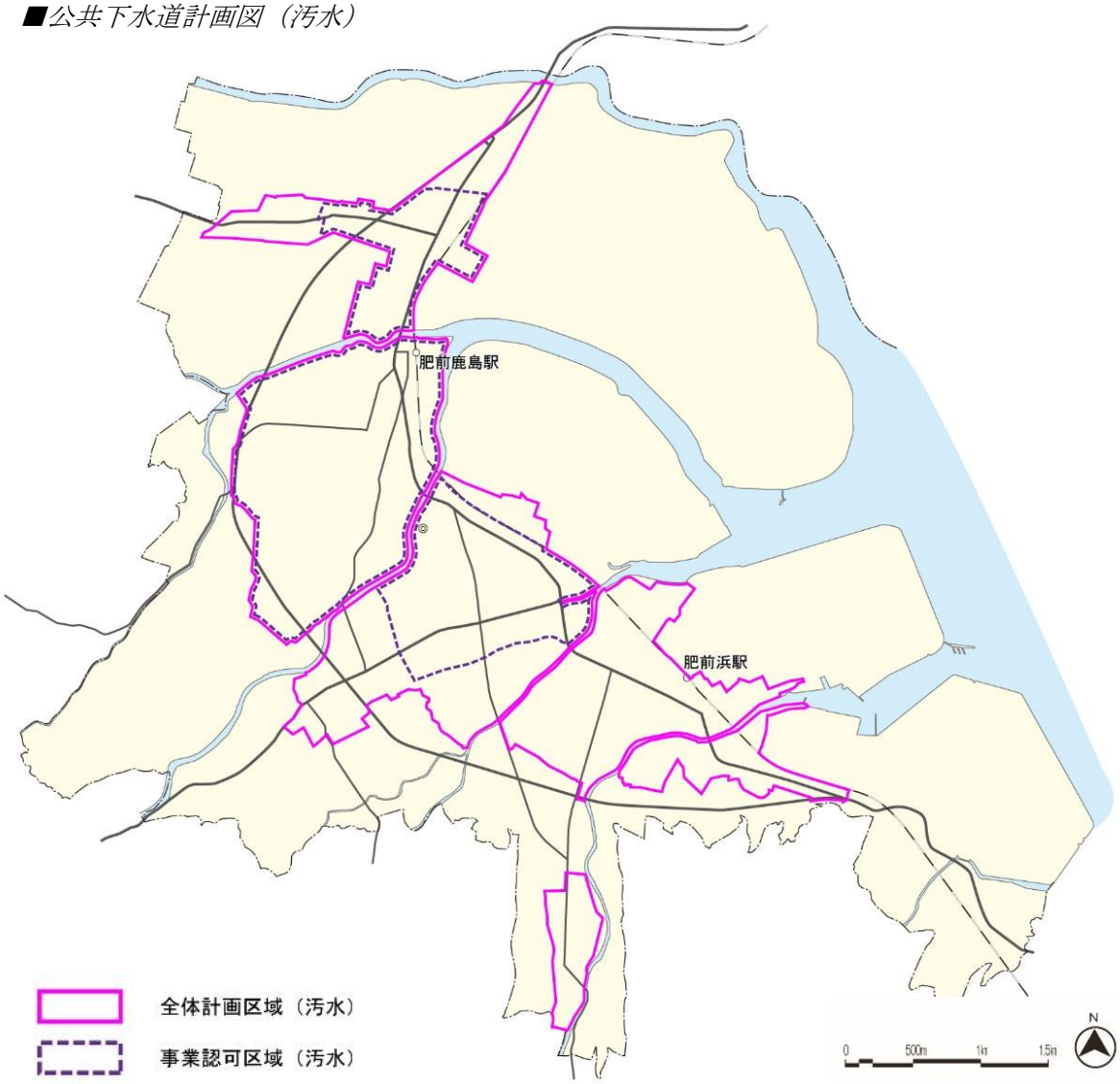
本市の下水道整備状況をみると、平成 25 年の普及率は 31.9%となっており、平成 21 年より 5.7%増加しています。

■下水道施設整備状況

	認可区域（ha）	処理区域（ha）	処理区域内人口（人）	普及率（%）
平成 21 年	365	230.6	8,280	26.2
平成 22 年	365	239.8	8,650	27.4
平成 23 年	365	251.1	9,116	29.0
平成 24 年	365	262.3	9.579	30.6
平成 25 年	365	271.3	9.894	31.9

出典：鹿島市データブック

■公共下水道計画図（汚水）



5-5 公共公益施設

（1）公共公益施設

本市には、市役所の周辺に生涯学習センター、図書館、市民会館があります。また、地域の交流を促進するための公民館が各地域に 1 つあり合計 6 ヶ所あります。体育館やグランド等、都市公園以外にも数多くの運動施設が分布し、広く市民に利用されています。

■公共公益施設の分布状況（都市計画区域内）

出典：鹿島市資料、全国大型小売店総覧 2013

（2）耐震化状況

本市の耐震化推進状況を見る と、公共施設の 95%が耐震化されている。

しかし、公共施設の法定耐用 年数は、RC 造が最も長く 50 年となっており、鹿島市では、目標年次である 20 年後耐用年数を超える公共施設は、建築年度が昭和 60 年以前の 85 件 であり、全体の 89%となっている。

■耐震化実施状況（H25）

区分	構造	建築年	耐震化済	件数
福祉施設	ＲＣ	S60 年以前	未	1
	S		済	1
体育館	RC	S60 年以前	済	5
		S61 年以降	済	1
消防団本部	S	S60 年以前	済	1
市役所	RC	S60 年以前	済	1
			未	1
校舎	RC	S60 年以前	済	27
			未	3
		S61 年以降	済	3
	S	S60 年以前	済	5
公民館	RC	S60 年以前	済	6
公営住宅	RC	S60 年以前	済	12
	その他		済	15
		S61 年以降	済	4
給食センター	S	S60 年以前	済	1
		S61 年以降	済	2
その他	RC	S60 年以前	済	4
	S		済	2
総　　計				95

（3）公営住宅

本市の公営住宅は、市営住宅が 11 団地 293 戸、県営住宅が 4 団地 210 戸整備されており、鹿島地区、浜地区に立地しています。

また、本市には市営住宅、県営住宅のほか、古枝地区に定住促進住宅も整備されています。

市営住宅は昭和 25 年から平成 5 年にかけて整備され、昭和 50 年以前に整備された市営住宅は 156 戸にのぼり、築後 40 年を経過する住宅が全戸数の 5 割以上を占めています。

また、構造別では簡易耐火構造が 177 戸と、全戸数の 6 割を占めています。

5-6 地域資源

（１）文化財等

本市の都市計画区域内における指定文化財は、国指定(選定)が 4 件、県指定 7 件、市指定が 17 件、国登録有形文化財が 8 件あります。本市の文化財は、浜地区に茅葺町家の残る浜庄津町浜金屋町や、江戸時代中期ごろから酒造業で栄えた面影を残す良質の町家や酒蔵が存在する浜中町八本木宿が重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、鹿島市独特の景観を形成しています。また、国指定文化財には、能古見地区に木造阿弥陀如来坐像をはじめとする彫刻や、佐賀鍋島藩の保護のもと受け継がれた格調高い文様染め布である木版摺更紗(鈴田滋人)といった工芸技術が指定されています。

■主な文化財等

出典：鹿島市の文化財～ふるさと歴史探訪～HP より

（2）観光・レクリエーション施設

本市の観光レクリエーション資源は大きく、歴史系資源、自然系資源に分かれており、歴史系資源は日本三大稲荷の一つである祐徳稲荷神社を始め、市街地中心部には社寺、史跡が多く分布しています。また、肥前浜宿には、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている酒蔵通りや茅葺町家が建ち並ぶ町並みなどがあります。

自然系資源は、ラムサール条約湿地として登録されている肥前鹿島干潟をはじめとする有明海の干潟関連資源、県立自然公園の多良岳山系に分布する諸施設が存在し、鹿島ガタリンピックをはじめ、これらの資源を活用した祭りやイベントが豊富です。

■ *主な観光施設*

出典：鹿島市散策マップ

5-7 災害

（1）災害状況

本市の災害としては、昭和 24 年から平成 18 年にかけて、16 回の水害被害を受けています。特に、昭和 37 年の水害では死者・負傷者合わせて 20 名、家屋等崩壊 43 件、家屋等浸水 4,621 件と甚大な被害を受けました。

浸水想定範囲をみると、塩田川および鹿島川の氾濫などの影響により、鹿島市北部における多くの範囲で、2.0m未満の浸水が予想されています。

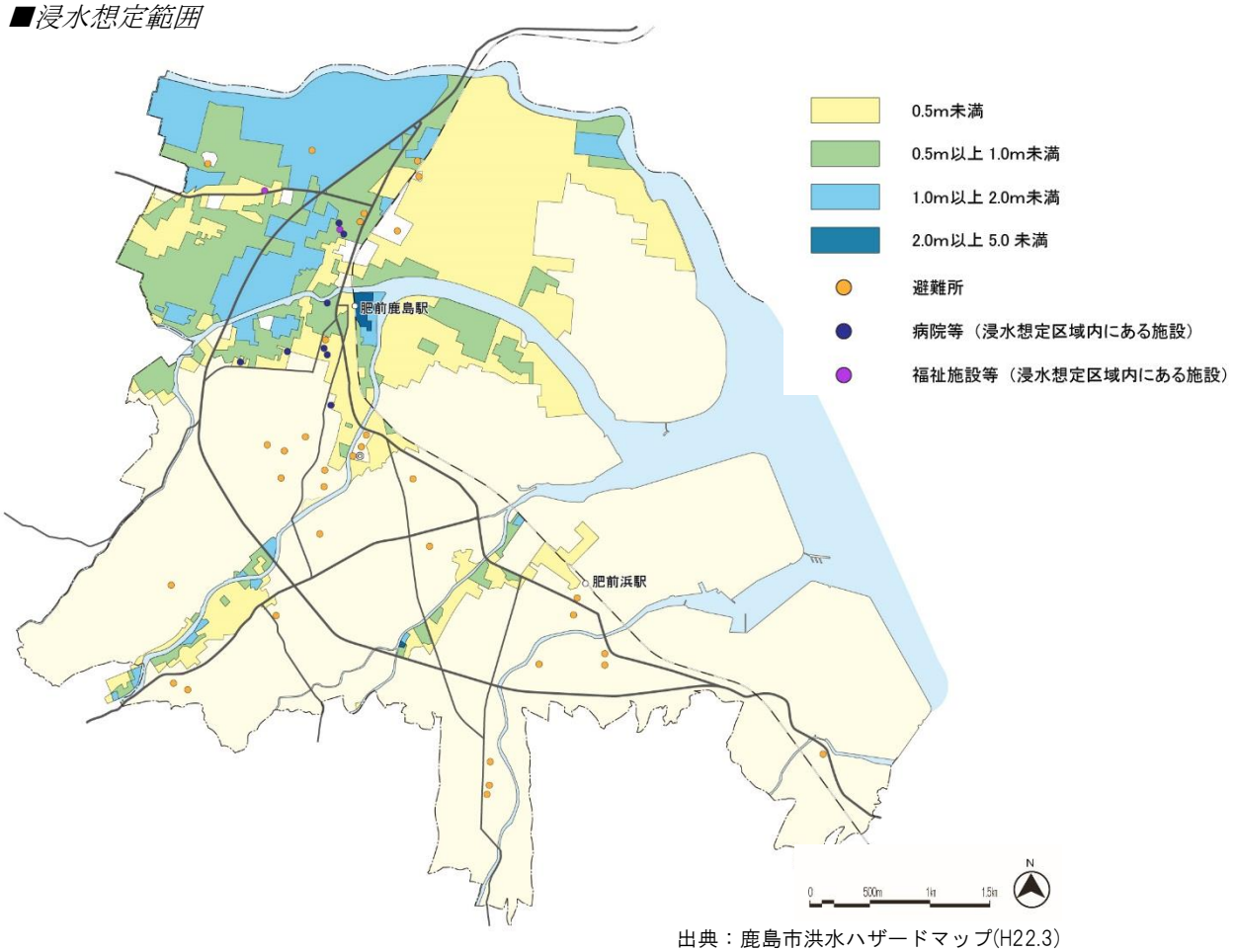
また、施設としては、鹿島市全域に避難所が点在しており、病院や福祉施設は北部に集中して立地しています。

■風水害の被害状況

発生年月日	種類	主な被害概要				
		死者	負傷者	家屋等崩壊	家屋等浸水	その他
昭和24年8月	台風	1	5	54	1990	堤防決壊54ヶ所、道路崩壊37ヶ所
昭和29年9月	台風			1	193	崖崩れ1ヶ所
昭和31年8月	豪雨			16	1814	堤防被害21ヶ所、道路崩壊15ヶ所、崖崩れ15ヶ所
昭和32年7月	豪雨		3	5	421	堤防被害23ヶ所、道路崩壊7ヶ所
昭和37年7月	豪雨	5	15	43	4621	河川決壊285ヶ所、道路被害285ヶ所、橋流出18ヶ所
昭和45年8月	台風			22	447	河川、道路、橋被害
昭和47年6月	豪雨		1	2	334	河川被害4ヶ所、道路被害26ヶ所、崖崩れ21ヶ所
昭和51年8月	豪雨		4	3	2929	河川決壊73ヶ所、道路被害86ヶ所、橋流出2ヶ所
昭和51年9月	台風		6	21	2682	河川決壊254ヶ所、道路被害63ヶ所、橋流出7ヶ所
昭和55年8月	豪雨		3	4	1132	河川決壊73ヶ所、道路被害86ヶ所、橋流出2ヶ所
昭和60年8月	台風	2		24	100	海岸決壊1ヶ所、道路被害2ヶ所
平成2年7月	豪雨	1	2	1	1733	河川被害45ヶ所、道路被害154ヶ所
平成3年9月	台風		2	244		河川被害2ヶ所、道路被害6ヶ所
平成11年6月	豪雨			2	90	河川被害7ヶ所、道路被害31ヶ所
平成18年6月	豪雨			4	17	河川被害2ヶ所、道路被害9ヶ所
平成18年8月	台風			81		道路被害39ヶ所

出典：鹿島市地域防災計画資料編

■浸水想定範囲



出典：鹿島市洪水ハザードマップ(H22.3)

6　都市計画マスタープラン策定（改定）の経緯

都市計画マスタープランの策定は、社会経済情勢や都市計画の現状分析をはじめ、市民アンケート調査やまちづくりワークショップで出された市民意向を反映しながら案を作成し、都市計画審議会や議会への説明、住民説明会やパブリックコメントなど、多様な視点からまちづくりの議論を重ねつつとりまとめたものです。

■都市計画マスタープラン策定(改定)の流れ〔平成 24 年～平成 28 年〕

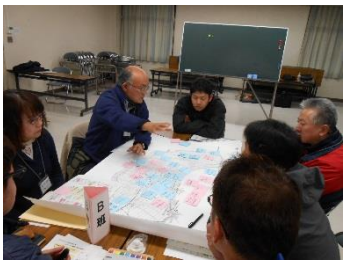
年月	策定の取組
平成 24 年 12 月	社会経済情勢や都市計画の現状分析
平成 25 年 2 月	市民アンケート調査の実施 ・調査対象:市内在住の 16 歳以上の市民 ・配布回収:1,750 票配布、613 票回収、回収率 35% ・調査方法:郵送自記方式
平成 25 年 11 月～12 月	まちづくりワークショップの開催 ・第 1 回テーマ:地域の再発見 ・第 2 回テーマ:地域の夢・将来像 ・第 3 回テーマ:都市づくりのアイデア　（於:市民会館　3 階大会議室）
平成 27 年 7 月	都市計画マスタープラン策定委員会(第 1 回)の開催　（於:市役所　庁議室）
平成 27 年 8 月	都市計画マスタープラン策定委員会(第 2 回)の開催　（於:市役所　庁議室）
平成 27 年 10 月	都市計画審議会(第 1 回)の開催　（於:市役所　庁議室）
平成 27 年 10 月	市議会全員協議会(第 1 回)での説明　（於:市役所　全員協議会室）
平成 27 年 11 月	パブリックコメント(鹿島市 HP) 住民説明会 ●鹿島・能古見地域　（於:鹿島市生涯学習センター） ●北鹿島地域　（於:北鹿島公民館） ●古枝・浜・七浦地域　（於:浜公民館）
平成 28 年 2 月	市議会全員協議会(第 2 回)での説明　（於:市役所　全員協議会室）
平成 28 年 2 月	都市計画審議会(第 2 回)の開催　（於:市民会館　3 階大会議室）
平成 28 年 3 月	都市計画マスタープラン策定(改定)

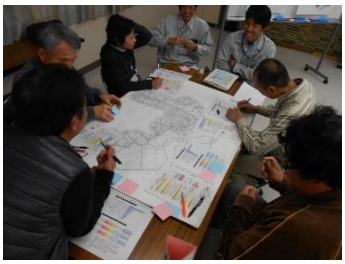
7　まちづくりワークショップの取組状況

まちづくりワークショップで出された主な意見を紹介します。

■ワークショップの様子と主な意見

【地域の夢“将来像”について話し合った結果】平成 25 年 12 月 12 日





＜地域の夢“将来像”＞　主に以下のような意見が出されました。

◆「守る・活かす・つくる・なおす」べきだ、と思う場所など

●守　る：歴史や自然、景観を守る
●活かす：駅や公園、橋、町並み、自然、人を活かす
●つくる：公共施設や観光施設、公園をつくる
●なおす：特産品の品揃えや鉄道、公共施設をなおす　　など

◆地域の将来像（キャッチフレーズ）

東部地区：人や道、観光拠点など様々なものをつないでいく ⇒**つながるまち　かしま**
西部地区：資源を活用して、大人から子どもまであそべる場所 ⇒　**あそべるまち　かしま**

【都市づくりの“アイデア”について話し合った結果】平成 25 年 12 月 20 日

＜都市づくりの“アイデア”＞　主に以下のような意見が出されました。

優先すべき取り組み内容

●施設について（浜駅・駅前、公民館、空き家、空き店舗の活用など）
●防災について（住宅密集地の火災対策、各団体間での防災計画の周知や連携など）
●自然・公園について（野鳥観察場所の設置、旭ヶ岡公園をはじめとする公園の魅力向上など）

取り組みにおける役割分担

●市 …予算や場所の確保、話し合いの場づくり、メンテナンス（施設の更新）など
●住民 …意識の向上、要望、利用、管理運営、市道　など
●企業 …学術的な支援、資金援助、出店、管理運営　など

鹿島市都市計画マスタープラン
平成 13 年 2 月策定
平成 28 年 3 月改定

編集・発行　佐賀県 鹿島市 都市建設課
〒849-1312　佐賀県鹿島市大字納富分 2643 番地 1
TEL:0954-63-2111　FAX:0954-63-2313
HP: http://www.city.saga-kashima.lg.jp/

Kashima City
Master Plan Concerning
City Planning